

令和 2 年度 中学校教科用図書調査研究報告書

国語	-----	1 頁
書写	-----	2 頁
社会（地理）	-----	3 頁
社会（歴史）	-----	4 頁～ 5 頁
社会（公民）	-----	6 頁～ 7 頁
社会（地図）	-----	8 頁
数学	-----	9 頁～10頁
理科	-----	11頁～12頁
音楽	-----	13頁
美術	-----	14頁～15頁
保健体育	-----	16頁
技術	-----	17頁
家庭	-----	18頁
外国語（英語）	-----	19頁～20頁
道德	-----	21頁～22頁

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	国語	種類	4種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2 東書	15 三省堂	17 教出	38 光村
		国語 701、国語 801、国語 901	国語 702、国語 802、国語 902	国語 703、国語 803、国語 903	国語 704、国語 804、国語 904
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・本編・基礎編・資料編で構成され、本編・基礎編で全ての指導事項を扱っている。 ・Dマークコンテンツとして、資料映像等をインターネットで利用できる。 ・古典作品の前に解説、後に「古典のコラム」を設け、より古典の世界を理解しやすくしている。絵巻や図版等の資料も豊富である。 ・読書が深められる設定がある。	・本編・資料編で構成されている。本編で全ての指導事項を扱っている。 ・二次元コードを読み取り、Web サイトで資料を閲覧できるようにしている。 ・古典教材の後に、コラム等があり、より古典の世界を理解しやすくしている。折り込み資料、巻末資料集も豊富である。 ・「読書の広場」で多くの本を紹介している。	・本教材・小教材・資料で構成されている。本教材・小教材ですべての指導事項を扱っている。 ・「まなびリンク」として、動画やデジタル資料が閲覧できるようにしている。 ・巻末に教材と同じ作品の別の章段を紹介するなど、古典作品の歴史的背景や全体像の理解を助けている。 ・小説・随筆を読む学習と情報活用・図書館活用・読書交流の活動を組み合わせた教材を設定している。	・本編と付録によって構成されている。本編ですべての指導事項が扱われている。 ・二次元コードを読み取り、デジタル資料を閲覧できるようにしている。 ・巻末に古典の教材を複数紹介している。カラーや写真資料などの視覚資料を掲載し、古典の世界をより理解しやすくしている。 ・学習・情報センターとしての図書館の活用方法を示す。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・基礎編では、「学びを支える言葉の力」など、資料編も同様に言葉の力を鍛える構成がある。 ・「日本語体験」「文法の窓」など、語彙を豊かにする内容が効果的に配置されている。 ・情報は、単元の中で要点を紹介し、巻末で解説している。 ・言葉の特徴やきまりに関する学習内容は、教材を螺旋的・反復的に配置し、定着や深化を図っている。	・確かな言葉の力を身に付けるため、その方法を巻頭に示している。 ・「言葉発見」「文法の窓」など、語彙を豊かにする内容が効果的に配置されている。 ・情報の単元を設定し、扱い方の理解や考えのまとめ方を示している。 ・言葉の特徴やきまりに関する学習内容は、教材を螺旋的・反復的に配置し、定着や深化を図っている。	・「言葉の地図」を巻頭に明示し、全体構成が分かるようにしている。また、「言葉の自習室」「折込」などで自学自習ができるようにしている。 ・「言葉の小窓」「文法の小窓」など、語彙を豊かにする内容が効果的に配置されている。 ・情報について、単元の中で独立した教材としている。 ・言葉の特徴やきまりに関する学習内容は、教材を螺旋的・反復的に配置し、定着や深化を図っている。	・巻末に多くの課題や資料を用意し、学習の振り返りや広げていくことができるようにしている。学習の効果を高めている。 ・「言葉」「文法の扉」など、語彙を豊かにする内容が効果的に配置されている。 ・情報について、単元の中で一教材として扱っている。 ・言葉の特徴やきまりに関する内容は、教材を螺旋的・反復的に配置し、定着や深化を図っている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、思考ツールを使い、協働的な学びを促しながら、多様な言語活動を設定している。 ・「読むこと」の領域では、「言葉の力」で身に付けるべき資質や能力を明示し、各学年で系統的に学べるよう教材の配列を工夫している。	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、興味・関心を促す多様な言語活動を設定している。 ・「読むこと」の領域では、学習過程と課題が明示された「学びの道しるべ」を設定し、意見発表や読み比べなどの言語活動が取り組めるようにしながら読む力が向上するようにしている。	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、「学びナビ」により学習のゴールを明確化したり、効果的な思考力を働かせて学べる多様な言語活動を設定したりしている。 ・「読むこと」の領域では、「学びナビ」により、読みの観点を明確化・焦点化している。また、「みちしるべ」で学習過程を構造化し、読む力を高める課題を設定している。	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、思考ツールにて情報を視覚化する等の工夫を施し、現代的な諸課題への意識を高め、学習の基盤となる多様な言語活動に取り組めるようにしている。 ・「読むこと」の領域では、「学習」で学習活動と読みを明確化し、構造的に捉えるようにして課題を示している。また、比較・批判・評価等の読みの能力を効果的に養えるよう教材構成を工夫している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・学習過程・手順、学び方を明示し、見通しをもち、主体的・対話的な学習に取り組めるようにしている。 ・巻末等の付録・資料を充実させ、深い学びに結び付くようにしている。 ・各領域での学習事項をまとめ、一覧表として示し「言葉の力」の系統性を示している。	・学習過程・手順、学び方を明示し、見通しをもち、主体的・対話的な学習に取り組めるようにしている。 ・巻末等の付録・資料を充実させ、深い学びに結び付くようにしている。 ・「学びの道しるべ」で各領域に対応した見通しや振り返りを明示し、社会生活で活かす実践的な力を育成するための学習事項を設定している。	・学習過程・手順、学び方を明示し、見通しをもち、主体的・対話的な学習に取り組めるようにしている。 ・巻末等の付録・資料を充実させ、深い学びに結び付くようにしている。 「学びナビ」で各領域の学習事項をまとめ、学ぶための知識や方法を示すことで、自分自身で習得、活用できるようにしている。	・学習過程・手順、学び方を明示し、見通しをもち、主体的・対話的な学習に取り組めるようにしている。 ・巻末等の付録・資料を充実させ、深い学びに結び付くようにしている。 ・「学習の見通しをもうぐ」「学習を広げる」で、各領域の学習事項をマークで示し、系統的に学べるようまとめている。 ・3年間を通して「主体的に聞く力」を育てるための対話・質問教材が配置されている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「発展」と明記している。 ・SDGsなど今日的な諸課題やその解決にあたるための力を育成する内容とした教材を配列している。	・「学びを広げる」として、発展的な教材を入れている。 ・SDGsなど今日的な諸課題やその解決にあたるための力を育成する内容とした教材を配列している。	・「発展」としてマークで示している。 ・SDGsを取り入れた内容及びSDGsに特化した多様な教材を配列している。	・「学習を広げる」の中に「発展」として示している。 ・SDGsなど今日的な諸課題やその解決にあたるための力を育成する内容とした教材を配列している。
	(5) 他の教科等との関連	・他教科や総合的な学習の時間等と関連する教材を選定し、工夫して配列している。 ・他教科との関連ある教材をマークで示している。 ・豊かな人間性やたくましく生きる意志の育成、人間、社会、自然についての考え、伝統と文化の尊重等の内容を、特別の教科 道徳との関連で扱っている。	・他教科や総合的な学習の時間等と関連する教材を選定し、工夫して配列している。 ・他教科及びその他の場面で活用できるグループディスカッションの取り組み方や「思考の方法」を図解で示し学べるようにしている。 ・豊かな人間性やたくましく生きる意志の育成、人間、社会、自然についての考え、伝統と文化の尊重等の内容を、特別の教科 道徳との関連で扱っている。	・他教科や総合的な学習の時間等と関連する教材を選定し、工夫して配列している。 ・SDGsとの関連ある教材をマークで示している。 ・豊かな人間性やたくましく生きる意志の育成、人間、社会、自然についての考え、伝統と文化の尊重等の内容を、特別の教科 道徳との関連で扱っている。	・他教科や総合的な学習の時間等と関連する教材を選定し、工夫して配列している。 ・SDGsと関連ある教材を幅広く扱っている。 ・豊かな人間性やたくましく生きる意志の育成、人間、社会、自然についての考え、伝統と文化の尊重等の内容を、特別の教科 道徳との関連で扱っている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・挿絵、写真、図表や資料等を適切に配置し、生徒が興味・関心・意欲をもって学習できるよう工夫している。 ・特別支援教育とカラーユニバーサルデザインの各専門家の後閲を受けるなど、確かなユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。 ・物語や説明文では、数字や「・」を用いて行数を分かりやすくする配慮がある。	・挿絵、写真、図表や資料等を適切に配置し、生徒が興味・関心・意欲をもって学習できるよう工夫している。 ・カラーユニバーサルデザインの専門家の後閲を受けるなど、確かなユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。	・挿絵、写真、図表や資料等を適切に配置し、生徒が興味・関心・意欲をもって学習できるよう工夫している。 ・特別支援教育の専門家の後閲を受けるなど、確かなユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。 ・物語や説明文では、数字や「・」を用いて行数を分かりやすくする配慮がある。 ・学習の流れが色分けにより視覚化されている。	・挿絵、写真、図表や資料等を適切に配置し、生徒が興味・関心・意欲をもって学習できるよう工夫している。 ・特別支援教育とカラーユニバーサルデザインの各専門家の後閲を受けるなど、確かなユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。 ・巻末に「学習の窓」「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」が配置され、復習しやすい構成となっている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	書写	種類	4種
--------	----	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	2 東書 書写 701	15 三省堂 書写 702	17 教出 書写 703	38 光村 書写 704
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・全学年分の内容が一冊で構成され、系統的・段階的な配列となっている。 ・单元ごとに、目標に対し振り返りが設定され、他者との対話により行われるように工夫されている。 ・Dマークコンテンツとして、資料映像等をインターネットで利用できる。	・全学年分の内容が一冊でまとめられ、「基礎編」「本編」「資料編」で構成されている。各学年で色分けされている。 ・各教材に目標を示し、学習後の振り返りを記述する欄を活用することにより、主体的な学習を促すよう工夫されている。 ・二次元コードを読み取り、Web サイトで資料を閲覧できるようにしている。	・全学年分の内容が一冊で構成され、系統的・段階的な配列となっている。学年ごとに色分けされている。 ・各单元に振り返りが設定され、「書くときの留意点」を見やすくまとめるなど、主体的な学習につながるよう工夫されている。 ・二次元コードを読み取り、Web サイトで資料を閲覧できるようにしている。	・全学年分の内容が一冊で構成され、各学年の発達段階に応じた単元や教材を系統的・段階的に配列している。 ・教科書の冒頭で3年間の目標を設定し、見通しを持って取り組むようにしている。また、全教材に「学習の窓」として学習のポイントを明示し、目標を持ち振り返りに取り組む仕組みがあり、主体的な学習につなげる工夫がある。 ・二次元コードを読み取り、Web サイトで資料を閲覧できるようにしている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・毛筆と硬筆の学習を関連付けている。 ・毛筆のみの手本の他に、リズムや筆圧を表す言葉を示したり、毛筆の穂先の通り道を朱色で示したり、書き順や字形、筆脈を示した手本を示したりするなど、毛筆の筆遣いが学べる工夫がある。 ・「書写のかぎ」で学習のポイントや実習の留意点を示している。また、「書写テスト」で基本的な知識を確認することができる。	・毛筆と硬筆の学習を関連付けている。 ・毛筆のみの手本の他に、毛筆の穂先の通り道を朱色で示した手本を示したりするなど、毛筆の筆遣いについて学習のポイントを生徒が見つめ、学べるようにしている。 ・学習のポイントを捉え、見つけるというステップで学べるようにし、主体的に取り組める工夫がある。	・毛筆と硬筆の学習を関連付けている。 ・毛筆のみの手本の他に、毛筆の穂先の通り道を朱色で示したり、書き順や字形、筆脈を示した手本を示したりするなど、毛筆の筆遣いが学べる工夫がある。 ・学習内容を確認する書き込み欄を設定し、基礎・基本が定着する工夫がある。また、「書写テスト」で学習内容の定着を図っている。	・毛筆と硬筆の学習を関連付けている。 ・毛筆のみの手本の他に、リズムを表す言葉を示したり、筆圧を視覚的に捉えられるようイラストで示したりしている。また、書く際のポイントとなる部分に毛筆の穂先の通り道を朱色で示したり、筆脈を示したりして、毛筆の筆遣いが学べる工夫がある。 ・「学習の窓」で学習のポイントを明示し、考える・確かめる・生かすというステップで主体的に学べるようにしている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・学ぶ内容を明確にするため、各单元に「見つけよう」「確かめよう」「書写のかぎ」「生かそう」を設けている。また、単元の学びを考えさせて、話し合う場面を設定する「振り返って話そう」が設けられている。 ・前の教材で学習した知識・技能を、生徒の身近な活動を題材にした具体例とともに学んでいく「生活に広げよう」という活用教材が設けられている。 ・書写活用ブックで理解を促す工夫がある。	・「書き方を学ぼう」で学ぶ内容を明確にし、「見つけよう」で单元ごとの目標が実際の文字にどのように使われているかを考えるように設定されている。また、協働的な学習を「やってみよう」の单元で設定している。	・各单元に「考えよう」を設定し考えて学びを深めるようにしている。また、「話し合い活動をととした学び方」を設定し話し合いのポイントを明示している。これらを巻頭の「学習の進め方」で示している。 ・「書き方」について、自分の考えや気づきを記入する項目が設けられている。	・巻頭の「学習の進め方」で各单元の「考えよう」「確かめよう」「生かそう」について説明し、特に「考えよう」「確かめよう」では、相互に話し合ったり、指摘したりする場面を設定し、話し合いによる学びの深まりをねらっている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・社会生活・学校生活に関わりのある内容として「生活に広げよう」を掲載している。 ・各教材が見開きページで構成され、各教材に学習目標と振り返りが設けられており、主体的に学習できるようになっている。 ・生徒が普段書いている硬筆の学習から入る手順となっている。 ・单元末には対話的に振り返り設定がなされている。	・これまでの学習を主に学校生活に結び付けた内容として「やってみよう」を掲載している。 ・各教材が見開きページで構成され、各教材に学習目標と振り返りが設けられており、主体的に学習できるようになっている。 ・硬筆による書き込みページが各教材に設けられており、毛筆の学習を他の場面で主体的に活用できるようにしている。	・各单元の中で学校生活や社会生活に結び付けた教材として「考えよう」を掲載している。 ・「振り返ろう」で自分の学習を確認し、次の学習への主体性を育めるよう工夫している。 ・各教材が見開きページで構成され、各教材に学習目標と振り返りが設けられており、主体的に学習できるようになっている。 ・話し合い活動のポイントや書写用語が示されている。	・巻末に学校生活や社会生活に結び付けた教材として「考えよう」「確かめよう」等を掲載している。 ・「振り返ろう」で自分の学習を確認し、次の学習への主体性を育めるよう工夫している。 ・各教材が見開きページで構成され、各教材に学習目標と振り返りが設けられており、主体的に学習できるようになっている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・言語活動の題材や教材文字は、SDGsにつながる社会の課題を意識するように設定している。 ・文字の芸術性につながる単元や高等学校の内容を紹介するコラムを設けて、関心を高める工夫が施してある。	・現代社会で活躍する「手書き文字」の達人を取り上げ、文字文化と自分達との関わりを考える単元を設定している。 ・発展学習として、篆刻や中国・日本の優れた筆跡を紹介するなど、高等学校での学習への関心を高める工夫が施してある。	・SDGsの達成に向けた取組を取り上げ、ESDの概念を広げる工夫をしている。 ・高等学校の学習内容について関心を高める工夫として、コラム「短冊と色紙」を発展学習として設定している。	・SDGsに配慮した構成としている。 ・高等学校の学習内容について関心を高める工夫として、「なりきり書聖・王羲之」を発展学習として巻末に設定している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(5) 他の教科等との関連	・毛筆・硬筆の学習の成果を生かし、実際の生活に生きる学びにつなげる工夫がある。 ・様々な場面に活用できるよう、ノート、手紙、新聞、リーフレット、ポスター、願書等の書き方を紹介している。	・毛筆・硬筆の学習の成果を生かし、実際の生活に生きる学びにつなげる工夫がある。 ・篆刻など、美術とのつながりとして学べる教材がある。 ・様々な場面に活用できるよう、便箋、封筒、はがき、のし袋、願書等の書き方を紹介している。	・毛筆・硬筆の学習の成果を生かし、実際の生活に生きる学びにつなげる工夫がある。 ・様々な場面に活用できるよう、手紙、便箋、封筒、年賀状、はがき、包み紙、エメール、小包伝票、願書等の書き方を紹介している。	・毛筆・硬筆の学習の成果を生かし、実際の生活に生きる学びにつなげる工夫がある。 ・様々な場面に活用できるよう、手紙、はがき、都道府県行書、願書、送り状等の書き方を紹介している。
	(1) 表記・表現の工夫	・教科書サイズはAB版で手書き文字に近い字形として、ゴシック体のユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・毛筆の運筆を動画で確認できるDマークコンテンツがあり、インターネットやコンピューター、タブレットを活用できる。 ・毛筆教材では、穂先の位置や筆脈等が朱墨を用いて示され、書く際の参考として活用できる。 ・書き込み欄が左利き生徒に配慮したものとなっている。	・教科書サイズはB版である。 ・読みやすく学びやすい字形として、独自の明朝体・ゴシック体を使用している。 ・硬筆や毛筆の姿勢や運筆、道具の扱い方等を動画で確認するための二次元コードが設定されている。 ・毛筆教材では、穂先の位置や筆脈等が朱墨を用いて示され、書く際の参考として活用できる。 ・書き込み欄が左利き生徒に配慮したものとなっている。	・教科書サイズはAB版である。 ・読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用している。 ・毛筆の運筆を真上から撮影した動画で確認できる二次元コードが設定されている。 ・毛筆教材では、穂先の位置や筆脈等が朱墨を用いて示され、書く際の参考として活用できる。 ・筆順を丁寧に表示している。	・教科書サイズはB版である。 ・読みやすく学びやすい字形として、ユニバーサルデザイン書体を使用している。 ・毛筆の運筆の動画を確認したり、用具の準備・片付け等を見たりすることができる二次元コードが設定されている。 ・毛筆教材では、穂先の位置や筆脈等が朱墨を用いて示され、書く際の参考として活用できる。 ・書き込み欄が左利き生徒に配慮したものとなっている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会・（地理）分野	種類	4 種
--------	-----------	----	-----

（ 1 ）枚中（ 1 ）枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2 東書)	教育出版(17 教出)	帝国書院(46 帝国)	日本文教出版(116 日文)
		地理 701	地理 702	地理-703	地理 704
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○課題を「つかむ」「追及する」「解決する」流れを冒頭で、学び方とともに説明し、使いやすくしている。 ○見開いた教科書2ページが構造化されており、「学習課題」を示し、この項で追及する内容の見通しを持たせる工夫をしている。 ○現教科書と比べるとシンプルな紙面となっており、集中しやすくしている。	○学習の冒頭の「地理の学習を始めるにあたって」で、小学校の社会科との接続・関連を図るとともに「地理的な見方・考え方を働かせて学習が展開できるようにしている。 ○「LOOK！」により、学習の導入となる資料を補足・説明し、本文内容との接続を図っている。また、地図やグラフ等の諸資料にも「Q」のマークで問いかけし、課題意識を持たせている。	○冒頭に「地理の見方・考え方」を示し、どこに視点をあてて学習するかわかりやすく説明している。 ○帝国書院の地図帳とセットで学習することで、より理解を深めるような内容にしている。(教科書と地図帳の資料を同じ資料を取り扱う、教科書の資料は簡略化し、地図帳の資料で細かく読み取る等の工夫) ○単元のまとめに観点を示し、わかりやすくしている。	○冒頭のページで図を使ってわかりやすく「地理的な見方・考え方」を示している。 ○見開いた教科書2ページが構造化されており、「見方・考え方」を示すとともに、「何を学び」「どのように学ぶのか」のポイントをおさえた紙面構成となっている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○学習内容を補充し、関連知識を習得する「地理にアクセス」(43 か所)配置し、理解を深めるよう工夫している。 ○つまづき易い事項は、巻末の「用語解説」で説明し、定着を図っている。 ○資料の読み取り方や調べ学習の手法等を「スキル・アップ」(32か所)で紹介し、「集める」「読み取る」「まとめる」(83 か所)で活用し、定着できるようにしている。 ○「ふりかえろう」でまとめを充実させ、定着を図っている。	○「地理にアプローチ」を設け、小学校社会科で学んだ基礎的な知識を確認できるように配慮している。 ○「地理の技」のコーナーを適宜設け、世界・日本の略地図の描き方統計資料の使い方等、基礎的な地理的技能を身につけやすいように配慮している。 ○「読み解こう」のコーナーを設け、具体的に資料を読み取りながら、考察する学習を重視している。 ○巻末の用語解説、側注を設けている。	○「章の問い」「節の問い」「学習課題」と単元を貫く問いを設け、学習内容に見通しを持ってやすくしている。 ○章・節・各本文ページの末尾には、「章(節)」の学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」を設け、学習の振り返り活動ができるようになっている。 ○「技能をみがく」コーナーを 23 か所設け、基礎的な技能を広く学べるようになっている。 ○用語解説が多く、わかりやすい紙面となっている。	○1授業時間を見開き2ページとし、何をこの時間で学び、どこに注目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で示している。 ○「見方・考え方」を働かせながら、「深めよう」を示し、「確認」コーナーの設置とともに知識・技能の確実な定着をねらっている。 ○巻末に「用語解説」の設け、定着を図っている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○「問い」を軸にした課題解決的な構成になっている。「探求課題」、「探求のステップ」、「学習課題」の3段階で「問い」を構成し、細かいステップで課題を解決していくようにしている。 ○地理的な「見方・考え方」をしっかりと捉え、「チェック&トライ」「探求のステップ」「探求課題の解決」等の学習場面で働かせ、思考・判断を深める内容となっている。 ○地域調査事例は、高知市を取り上げている。	○「確認」と「表現」のコーナーを設け、「確認・整理」と「表現」では、地理的事象や課題に関わる説明や話し合い等の表現活動を取り組めるようにしてある。 ○「ワードチェック」で学習してきた言葉の確認の後、自分なりの言葉で説明する「表現しよう」、さらにまとめた意見について互いに話し合う「意見を交換しよう」を設けている。 ○地域調査事例は、名古屋市を取り上げている。	○コラム「未来に向けて」(25 か所)では、環境・防災・共生を主題として持続可能な開発目標(SDGs)について考察できるようにしている。 ○特設ページ「地域の在り方を考える」(7か所)を通して、より「具体的に地域の在り方をこうそうすることが期待できる。 ○地域調査事例は、東京練馬区を取り上げている。	○「自由研究」「スキル UP コーナー」「トライコーナー」を設け、地理的事象をより身近に捉えたり、地理的な技能を身につけたりすることができるようにしている。 ○各州・各地方の地域的特色を視覚的に捉えることができる導入を設定している。また、章末に「ふりかえろう」のページを設け、学習したことを振り返り、より思考を深め、判断し、表現する学びを工夫している。 ○地域調査事例は、京都伏見区を取り上げている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○小集団の参加型学習である「みんなでチャレンジ」等の対話的な学習の場面や持続可能な社会に向けて構想する学習場面を設けて、より良い社会を築く意識と態度を養えるように配慮している。 ○第4章では、身近な地域の課題の学習を通して、持続可能な開発目標について取り組むことができるように工夫している。	○「地理の窓」を設け、学習から興味や関心を広げていけるようになっている。(54 か所) ○「ワードチェック」で学習してきた言葉の確認の後、自分なりの言葉で説明する「表現しよう」、さらにまとめた意見について互いに話し合う「意見を交換しよう」を設け、自主的に学習に取り組めるよう配慮している。 ○「学習課題」を明示し、課題意識をもって学習に取り組めるようにしている。	○巻頭7に「地理的な見方・考え方について」を設け、「見方・考え方」についてわかりやすく説明している。また、「章(節)」の学習を振り返ろう」で「見方・考え方」を働かせた「章(節)の問い」や考察を通じて、学びを追及する態度や資質を養えるよう工夫している。 ○「声」(18 か所)を設け、実社会の人々の具体的な話を紹介し、対話的な学びを取り入れている。 ○「特設ページ」(17 か所)を設け、深い学びにつなげる工夫をしている。	○「チャレンジ地理」や「アクティビティ」を設置し、その節で学習したことを生かして自分で考えたり対話したりする具体的な問いや活動を提示している。(第2編第2章、第3編第3章) ○現代の課題(人権、環境、平和、防災、伝統・文化)について、生徒自身がこれらの課題について考えられるようにしている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○Dマークや二次元コードが付いている部分では、二次元コード・URLなどからリンクすることができるようになっている。 ○制度化された学習者用デジタル教科書を発行する予定である。		○二次元コードの利用で、教科書に掲載している資料の一部を、タブレットパソコンで閲覧できるようにしている。 ○各章・節の二次元コードでは、学習内容に関連する動画を、章末特設「学習を振り返ろう」では、知識を確認する問題の回答を閲覧でき、自主学習を支援している。 ○学習者用デジタル教科書を発行し、特別支援教育に活用できる機能を付加する。	○デジタルマークを付けた箇所では、日文 Web ページにコンテンツを用意し活用できるようにしている。
	(5) 他の教科等との関連	○小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動を設け、円滑に接続できるよう工夫している。 ○持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を、特設ページ「もっと地理・歴史・公民」に3分野で取り上げ、それぞれの視点から考察できるようになっている。 ○同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連マークで示し、多面的・多角的に考察できる。 ○他教科の学習との関連箇所にはマークを付して連携を図っている。	○本文中に、資料との関連を示す番号や参照ページ、右ページ下の地理の他ページとの関連、他分野との関連も示している。 ○コラム「地理の窓」を設け、興味や関心を広げていく工夫をしている。	○「説明しよう」や「資料活用」、特設「章(節)」の学習を振り返ろう」等、地理的分野で鍛えていく「見方・考え方」の活用機会を重視して設けており、高校の「地理総合」に通底するものとなっている。 ○「道徳教育に関する配慮事項」に関わる特色として、実社会の人々の具体的な話を紹介するコラム「声」(18 か所)を設けている。 ○地図帳とセットで使うことで、より理解が深まるようにしている。(あえて教科書の資料を簡略化し、地図帳の資料を活用するようにしている)	○見開きページ内に「連携コーナー」を設け、小学校の学習や歴史・公民とのつながりを示している。 ○道徳「社会参画、公共の精神」「国際理解、国際貢献」等について各所で取り扱っている。 ○各章の冒頭ページに「小学校の学習の振り返り」を取り入れ、本章での学習の見通しを持たせている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、学習に必要な情報に集中できるようにしている。 ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を向上させている。写真等の資料が鮮明で見やすい。 ○振り仮名には、読み取りやすいゴシック体を使用している。 ○色覚特性への配慮を行っている。(文字の縁取り、破線や点線を減らす等)また、資料を背景色で見やすくし工夫している。	○ワイドで見やすいAB判を採用している。 ○判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)やレイアウト、表現方法、文字(ユニバーサルデザインフォント)等を工夫している。 ○「まなびリンク」を設け、さまざまな情報を得ることができるようにしている。(当社ウェブサイトとのリンク)	○文字は、見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザインフォント(UD フォン)を使用している。 ○識別しやすい色を使用し、折れ線グラフ等は、線種を変えなどの工夫をしている。 ○現行比で約 5%軽量化している。 ○資料が鮮明である。	○ルビを全て読みやすいゴシック体にし、ユニバーサルデザインに配慮している。 ○AB判を採用し、左右スペースにグラフや資料等を掲載し、本文内容の補完を充実させている。 ○前回の教科書と比較して約 5%軽い用紙を使用し軽量化を図っている。 ○製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくなっている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会・（歴史）分野	種類	7 種
--------	-----------	----	-----

（ 2 ）枚中（ 1 ）枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	帝国書院(46・帝国)	山川出版(81・山川)
		歴史 705	歴史 706	歴史-707	歴史 708
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○冒頭で歴史をとらえる見方・考え方を示し、歴史学習の基礎・基本が定着できるように配慮している。 ○各章の冒頭の略年表で、「小学校で習ったことば」「政治」と「経済・社会・文化」「世界の動き」がわかるようにしている。 ○「問い」を軸にした単元の構造化により、課題解決的な学習が行えるようにしている。 ○章・節の課題を明確にし、教科書が構造化されている。 ○年表スケールでどの時代の学習なのか、わかりやすくしている。(見開き左下)	○第1章では、歴史の捉え方・調べ方を示し、歴史学習の視点を丁寧に標記している。 ○学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示し、課題意識を持ちやすくしている。 ○年表スケールでどの時代の学習なのか、わかりやすくしている。(見開きタイトル上)	○冒頭に「歴史の見方・考え方」を示し、どこに視点をあてて学習するかわかりやすく説明している。 ○単元が構造化され、見通し・振り返りに基づいた単元の学習を実践できるようにしている。 ○各時代の「文化」については、写真等資料を大きく掲載し、4ページで1時間の扱いとしている。 ○年表スケールでどの時代の学習なのか、わかりやすくしている。(見開き右端)	○導入の発問、本文、ステップアップにおける振り返りで、各単元を統一している。 ○「問いで」物事の差異や共通点に気づかせて歴史的見方を捉えさせるようにしている。 ○豊富な発問によって歴史が変化する過程で起こる諸課題を意識する「歴史的な見方・考え方」が身につくように工夫している。 ○日本と世界の歴史の関連について詳しく取り上げている。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○課題を「つかむ」「追及する」「解決する」そして、「基礎・基本をまとめる」という流れで基礎・基本の定着を図っている。 ○つまづき易い事項は、巻末の「用語解説」で説明し、定着を図っている。 ○資料の読み取り方や調べ学習の手法等を「スキル・アップ」で紹介し、技能を活用するコーナーも設け、定着を図っている。(集める・読み取る・まとめる)	○各時間に表示した「時代スケール」により、これから学習する時代を視覚的につかめるようにしたほか、学習のポイントをつかみやすいようにしている。 ○難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注や「◆解説」による説明を設けており、理解しやすいようにしている。また、資料との関係を示す番号や参照ページが挿入されている。	○「章の問い」「節の問い」「学習課題」と単元を貫く問いを設け、学習内容に見通しを持ってやすくしている。 ○章・節・各本文ページの末尾には、「章(節)」の学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」を設け、学習の振り返り活動ができるようになっている。 ○「技能をみがく」コーナーを12か所設け、情報収集や多面的・多角的な分析の力がつくよう工夫している。 ○「資料活用」の問いを通して技能の伸長を図っている。	○各テーマ冒頭に、そのテーマを理解するための発問を付し、本文を読む視点を示している。 ○図版は大きく、見やすく、発問を付し、注目する点を示唆している。 ○日本史と世界史の年代を上下に分けて示す常年表を付し、視覚的に流れをつかませる工夫をしている。 ○用語解説や側注を付け、理解を助ける工夫をしている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○「問い」を軸にした課題解決的な構成になっている。「探求課題」、「探求のステップ」、「学習課題」の3段階で「問い」を構成し、細かいステップで課題を解決していくようにしている。 ○歴史的な「見方・考え方」をしっかりと捉え、「チェック&トライ」「探求のステップ」「探求課題の解決」等の学習場面で働かせ、思考・判断を深める内容となっている。 ○「見方・考え方」「歴史にアクセス」で深い学びの視点を示している。	○興味や関心を広げていくコラム「歴史の窓」や、歴史を様々な側面から掘り下げていくテーマ学習のページを設け、学びを深める工夫がある。 ○「読み解こう」や「Q」等の問いを設け、時代の特色を考察することを重視している。 ○学習課題と対応させ、「確認」「表現」のコーナーを設け、表現活動に段階的に取り組めるように工夫している。	○本文、「タイムトラベル」では、一般の人々の姿も積極的に描かれており、様々な人の営み、努力や工夫の上に歴史がつくられてきたことが理解できるようになっている。 ○コラム「未来に向けて」(43か所)では、当時の人々が連携・協働して社会的な課題の解決に取り組んだ様子から思考・判断することができる。 ○両論併記した資料で、異なる考えや対立する考えを紹介し、考えを深めるよう工夫している。	○「歴史へのアプローチ」で深く掘り下げて解説している。 ○問いに自ら考え、判断する力を身につけられる工夫がある。 ○「問い」で物事の差異や共通点に気づかせて歴史的見方を捉えさせるようにしている。 ○「問い」で美術作品、遺物、史跡等から何が読み取れるかを考えさせるよう工夫している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○現代的な諸課題を取り上げ、その背景や経過に目を向けながら、解決に向けて具体的に考えることができる。 ○小集団での参加型学習である「みんなでチャレンジ」等の対話的な学習の場面や持続可能な社会に向けて構想する学習場面を設けて、より良い社会を築く意識と態度を養えるように配慮している。 ○「資料から発見！」では、対話的に学習に取り組めるよう配慮をしている。	○「確認」と「表現」のコーナーを設け、「確認・整理」と「表現」では、歴史的事象や課題に関わる説明や話し合い等の表現活動に取り組めるようにしてある。 ○各章末の「学習のまとめと表現」で、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分なりの言葉で説明する活動を取り入れている。	○第Ⅰ部の末尾には「歴史的な見方・考え方を働かせよう」を設け、歴史的な「見方・考え方」について概観できるようにしている。 ○章末特設「章の学習を振り返ろう」で「見方・考え方」を働かせた各時代の特色に対する論理的な説明に取り組む中で、考察を深める態度と資質が養えるようになっている。 ○「コラム」では先人たちの取組を紹介し、対話的な学びで深めることができるようにしている。	○「問い」で身の回りの生活や身近な地域と、歴史との関連を気づかせるようにしている。 ○導入の発問、ステップアップの課題、図版に付した発問等、各所に設けた発問を自ら考え、判断する力を身につけさせる工夫をしている。 ○さまざまな立場を考慮した叙述を心掛け、価値観の異なる立場の資料を取り上げている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○Dマークや二次元コードが付いている部分では、二次元コード・URLなどからリンクすることができるようになっている。 ○制度化された学習者用デジタル教科書を発行する予定である。	○「学びのリンク」を設け、教科書と教文のウェブサイトをクリックさせ、様々な情報が得られるようにしている。	○各章・節の二次元コードでは、学習内容に関連する動画を、章末特設「学習を振り返ろう」では、知識を確認する問題の回答を閲覧でき、自主学習を支援している。 ○学習者用デジタル教科書を発行し、特別支援教育に活用できる機能を付加する。○二次元コードの利用で、教科書に掲載している資料の一部を、タブレット/パソコンで閲覧できるようにしている。	○博物館や資料館のホームページサイトや動画を見たり、音声を聞いたりすることができるように二次元コードを掲載している。 ○人権に関するトピックスをあげ、詳しく学習できるような工夫がある。
	(5) 他の教科等との関連	○小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動を設け、円滑に接続できるよう工夫している。 ○持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を、特設ページ「もっと地理・歴史・公民」に3分野で取り上げ、それぞれの視点から考察できるようになっている。 ○同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連マークで示し、多面的・多角的に考察できる。 ○他教科の学習との関連箇所にはマークを付して連携を図っている。	○第1章「歴史の流れをとらえよう」では、小学校6年生の歴史学習との接続・関連を図るために、歴史上の人物を焦点化して取り上げている。 ○小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産を振り返りながら中学1年生へのスムーズな接続を図っている。 ○テーマページの下には、「関連」マークを付し、他分野との関連を記している。	○「歴史をたどろう」や「タイムトラベル」を通して、小学校で学習した人物や既習事項を振り返ることができる。 ○見開きページ下に、小学校や他分野との関連について記している。 ○「章の学習を振り返ろう」や「多面的・多角的に考えてみよう」を通して、歴史の「見方・考え方」の活用機会や「多面的・多角的に考察」していく機会を重視しており、高等学校の「歴史総合」に通底し、円滑な接続が期待できる。	○小学校での歴史の学習を踏まえ、幅広く、深く歴史の知識を身につけられるようにしている。 ○高校の「詳説日本史」「詳説世界史」の構成に沿った流れとなっており、高校の日本史、世界史へのスムーズな移行ができる。(専門的な記述が多い)
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、学習に必要な情報に集中できるようにしている。 ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を向上させている。 ○巻末の見開き年表が使いやすく、見やすい。 ○色覚特性への配慮を行っている。(文字の縁取り、破線や点線を減らす等)写真・資料が鮮明である。	○見開きのページの「タイトル」のつけ方が、とても興味を引くものとなっている。 ○ワイドで見やすいAB判を採用している。 ○判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)やレイアウト、表現方法、文字(ユニバーサルデザインフォント)等を工夫している。鮮明で見やすい。 ○「まなびリンク」を設け、さまざまな情報を得ることができるようにしている。(当社ウェブサイトとのリンク)	○文字は、見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用している。 ○識別しやすい色を使用し、折れ線グラフ等は、線種を変えるなどの工夫をしている。	○地図・グラフは、カラーユニバーサルデザインに配慮している。 ○各テーマの基本色を日本史・世界史で分け、今学んでいることが日本のことか世界のことかがすぐわかるようにしている。 ○1テーマ、見開き2ページとした構成としている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会・（歴史）分野	種類	7 種
--------	-----------	----	-----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	日本文教出版(116・日文)	育鵬社(227・育鵬社)	学び舎(229・学び舎)	発行者名(番号・略称)
		歴史 709	歴史 710	歴史 711	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○第1編「私たちと歴史」で、歴史の見方・考え方を示すとともに、歴史学習をわかりやすく説明している。 ○見開いた教科書2ページが構造化されており、「何を学び」「どのように学ぶのか」のポイントをおさえた紙面構成となっている。特にどの見開きページにも見方を示し、学ぶ視点をわかりやすく提示している。 ○特に各時代の「文化」「人々の暮らし」「経済」については、資料を大きく取り扱い、4ページで記述している。 ○年表スケールがあり、その学習がどの時代の頃かがわかりやすく表示されている。(見開き右端)	○各章冒頭に「歴史絵巻」を設け、各時代の歴史の大きな流れが一目でわかるようにしている。 ○「〇〇の世界へようこそ！」で、各時代を象徴する歴史的事象をズームアップし、特色を理解できるようにしている。 ○各章を色分けし、時代を色で見分けることができ、わかりやすくしている。	○	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○1授業時間を見開き2ページとし、何をこの時間で学び、どのような視点や方法に注目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で示している。 ○学習課題の理解を深める問いである「深めよう」を示し、「確認」コーナーの設置とともに知識・技能の確実な定着をねらっている。 ○「資料活用」コーナーを設け、資料の読み取りを補助している。	○「つかむ」「調べる」「まとめる」そして、「表現する」問題解決型の教材配列としている。 ○各章に「このころ世界は①～⑥」を設け、世界の歴史を背景に我が国の歴史を捉えるようにしている。 ○『私の歴史博物館』をデザインしてみよう①～⑥」を設け、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技術が身につくようにしている。 ○序章で、歴史学習の基礎基本について説明している。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」「地域に学ぶ」「地域調べ」等、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコーナーや特設ページを設け、地域や先人の知恵に学ぶことができるようにしている。 ○「チャレンジ歴史」と「アクティビティ」を通して、それぞれの時代について考え、判断し、表現する学習を重視している。	○「学習のまとめ」に取り組むことにより、毎時間の学習の中で思考力・判断力・表現力を育めるようにしている。 ○見開きごとの「鉛筆マーク」や各章の「学習のまとめ①～⑥」巻末の「歴史学習のまとめ①②」では、学習した内容を活用して各時代の特色を考察し表現することをねらっている。		
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○第2編～第5編第2章までの各編の一つずつ、「チャレンジ歴史」を設置し、資料をもとに自分で考えたり、対話をして歴史を学ぶおもしろさを体験できるようにしている。 ○「アクティビティ」を設置し、具体的な活動事例を提示し、各時代の特色を捉えられるようにしている。 ○現代的課題(人権、環境、平和、防災、伝統・文化)について、生徒自身がこれらの課題について考えられるようにしている。	○各章の「歴史のターニングポイント①～⑥」では、各時代を代表する大きなできごとについて、資料を基にグループで意見交換し、議論できるように配慮している。 ○各章の「〇〇の世界へようこそ!」、巻末の「歴史学習のまとめ①②」を設置し、課題と主体的に向き合う設問を用意している。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○デジタルマークを付けた箇所では、日文 Web ページにコンテンツを用意し活用できるようにしている。	○「人物クローズアップ」で、日本の歴史の中で美德を体現した人物や、国家や人生の岐路に道を開いた人物を詳しく紹介している。 ○「なでしこ日本史 その1～5」を設け、各時代を代表する15人の女性たちの生き方を詳しく紹介している。		
	(5) 他の教科等との関連	○道徳科の教育目標に基づき、命の尊さや伝統・文化などをテーマに据えた特設ページ・コラム(「先人に学ぶ」「歴史を掘り下げる」等)を設置し、内容の充実が図られている。 ○第1編で小学校社会科との連携について説明している。 ○見開きページ内に「連携コーナー」を設け、小学校の学習や歴史・公民とのつながりを示している。	○序章で、「歴史の流れと先人の活躍」を設け、小学校で学んだ人物を取り上げ、中学校歴史へのスムーズな接続を図っている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○ふりがなは全て読みやすいゴシック体にし、ユニバーサルデザインに配慮している。 ○AB判を採用し、左右スペースにグラフや資料等を掲載し、本文内容の補完を充実させている。 ○前回の教科書と比較して約 5%軽い用紙を使用し軽量化を図っている。	○AB判の判型で図版や写真などの資料が大きい。 ○図版資料には、先生が示しやすく、生徒が確認しやすいように図版番号がついている。 ○重要語句、重要人物は、ゴシック体で表記している。		

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会・（公民）分野	種類	6 種
--------	-----------	----	-----

（ 2 ）枚中（ 1 ）枚

採択基準	基本観点	東京書籍(2・東書)	教育出版(17・教出)	帝国書院(46・帝国)	日本文教出版(116・日文)
		公民 901	公民 902	公民-903	公民 904
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○全体を通して、公民的「見方・考え方」を働かせる場面を設け、現代社会の見方・考え方が習熟できる。 ○「探求のステップ」の問いを章末でまとめさせるとともに、「ふり返り」の内容をさらに充実させている。 ○国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」を取り上げ、国際社会が抱える諸課題の理解が促せるようになっている。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付して詳しく説明している。 ○日本の領土について地図や写真で明確に記述している。	○学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示し、課題意識を持ちやすくしている。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付して詳しく説明している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○アクティブ・ラーニング型の授業を行える「アクティブ公民」を 10 か所設け、社会的な概念に基づいた論理的な説明と様々な立場を踏まえての合意形成を目指す議論が促せるようになっている。 ○巻末の憲法の難しい語句については、解説を付している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○学習課題の解決に向けての手がかりとなる「見方・考え方コーナー」を全てのページに設け、「アクティビティ」や「深めよう」等を通して繰り返し「見方・考え方」を働かせることができるようにしている。 ○巻末の参考法令の難しい語句については、解説を付している。 ○見開きページに毎時間「見方・考え方」を示し、配慮している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○「スキルアップ」を、「集める」「読み取る」「まとめる」の三つの側面で設け、公民学習に必要な技能の定着を図っている。 ○各単元の終結部には、「基礎・基本のまとめ」を設け、定着の確認と振り返りができるようにしている。 ○構造化された「問い」を軸にする課題解決的な単元構想で、「探求課題」を立て、「学習課題」を提示し、「チェック＆トライ」の2段階で学習課題を解決できるようにしている。 ○導入・学習・まとめをつなげ、理解を図っている。	○各章の導入に設けた「学習のはじめに」のページで、学習内容と章全体の学習課題を掲載し、見通しを持ちやすくしている。 ○難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注や「◆解説」による説明を設けており、理解しやすいようにしている。また、資料との関係を示す番号や参照ページを挿入し、理解を深める工夫をしている。	○「章の問い」「節の問い」「学習課題」と単元を貫く問いを設け、学習内容に見通しを持ってやすくしている。 ○章・節・各本文ページの末尾には、「章(節)」の学習を振り返ろう」「確認しよう」「説明しよう」を設け、学習の振り返り活動ができるようになっている。 ○「資料活用」の問いを通して技能の伸長を図っている。 ○「技能をみがく」(10 テーマ)で、基礎的な公民的な技能をみがく学習内容を設けている。	○1授業時間を見開き2ページとし、何をこの時間で学び、どのような視点や方法に注目して学習を進めるのかを「学習課題」「見方・考え方」で示している。 ○学習課題の理解を深める問いである「深めよう」を示し、「確認」コーナーの設置とともに知識・技能の確実な定着をねらっている。 ○「資料活用」コーナーを設け、資料の読み取りを補助している。 ○「用語解説」「類似用語集」で定着を図っている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○現代社会の見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりしてより深い思考・判断ができるようにしている。 ○「もっと公民」を設け、学習内容を基にもっと深めたり、異なる視点で捉えたりしながら学習ができるようにしている。 ○「見方・考え方」「公民にアクセス」で深い学びの視点を示している。	○見方・考え方を活用して考察する場面に、「見×考」マークを付し、巻末の「学習のまとめと表現」のページでは、考察し、構想し、表現する言語活動を取り入れている。 ○コラム「公民の窓」「クリップ」や2種類のテーマ学習のページ(「言葉で伝え合おう」「読んで深く考えよう」)を設け、個やグループに応じた学びへのアプローチができる。	○「アクティブ公民」(10 か所)を設け、アクティブ・ラーニング型の授業づくりをねらうとともに、公民的な見方・考え方を考察する中で働かせたり、課題解決に向けた選択・判断に応用していくようにしている。 ○社会的課題の解決に向けた選択・判断に取り組む活動を、コラム「Yes/No」(8 か所)で行えるよう工夫している。	○考察、構想する際に働かせる概念「対立と合意」、「効率と公正」を充実させ、「見方・考え方」を働かせる学習活動を多く取り入れている。(「アクティビティ」「深めよう」) ○教科書内に自分の考えを説明させる問いを提示し、習得した知識を用いて文章化、言語化できるようにしている。 ○「シンキングツールマーク」を付し、課題について考える手助けとなるチャートや表等を紹介している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○「みんなでチャレンジ」を設け、話し合い等の対話的な活動を通じて学習を深め、価値判断や意思決定を行えるようにしている。 ○「18 歳へのステップ」を設け、主権者意識を高められるように工夫している。 ○各章の終わりに「まとめの活動」を設け、学習したことを振り返り、対話的に学習に取り組めるようにしている。	○コラム「公民の窓」「クリップ」や2種類のテーマ学習のページ(「言葉で伝え合おう」「読んで深く考えよう」)を設け、個やグループに応じた学びへのアプローチができる。 ○「公民の技」のコーナーを設け、個人やグループでの活動を通じて技能や表現力を養えるようにしている。 ○「確認」と「表現」のコーナーを設け、「確認・整理」と「表現」では、社会的事象についての説明や話し合い等の表現活動に取り組めるようにしている。	○「先輩たちの選択」を設け、掲載した人物からの中学生へのメッセージを設け、主体的に社会に参画する意識を持たせるように工夫している。 ○「技能をみがく」(10 か所)のコーナーでは、自由な意見交換を整理する際の手法や、議論の進め方等の技能を習得できるようにしている。 ○「公民プラス」(25 テーマ)を設け、対話的な学習に取り組めるようにしている。	○考察、構想する際に働かせる概念「対立と合意」、「効率と公正」を充実させ、「見方・考え方」を働かせる学習活動を多く取り入れている。(「アクティビティ」「深めよう」) ○第5編では、持続可能な社会の実現のための課題を生徒自らが設定し、その解決に向けて考察、構想する学習活動を設けている。 ○「コラム」で、さらに学習内容を掘り下げていくことができるよう工夫している。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○Dマークや二次元コードが付いている部分では、二次元コード・URLなどからリンクすることができる。 ○学習者用デジタル教科書を発行する予定である。 ○巻末にアクションプランとして、まとめ、考察、レポート、プレゼンテーションという流れを具体的に示している。 ○京都府内の写真資料を4事例取り上げている。	○「学びのリンク」を設け、教科書と教育出版のウェブサイトをクリックさせ、様々な情報が得られるようにしている。 ○最終章で、「持続可能な未来の社会」に向けて考えをまとめ、対話する内容を取り入れている。 ○京都府内の写真資料を2事例取り上げている。	○二次元コードの利用で、タブレットパソコン等で閲覧できる。 ○巻末に課題の探求として、レポート作成を具体的に示している。	○デジタルマークを付けた箇所では、日文 Web ページにコンテンツを用意活用できるようにしている。 ○巻末では、「持続可能な社会」を目指して、考察し、レポート作成、プレゼンテーションと一連の活動を具体的に示している。 ○京都府内の写真資料を4事例取り上げている。
	(5) 他の教科等との関連	○小学校社会科で学習した内容を用語や写真で振り返る活動を設け、円滑に接続できるよう工夫している。 ○持続可能な社会の実現のために解決すべき課題を、特設ページ「もっと地理・歴史・公民」に3分野で取り上げ、それぞれの視点から考察できるようになっている。 ○同一の写真・グラフ・地図を3分野共通で掲載し、他分野との関連マークで示し、多面的・多角的に考察できる。 ○他教科の学習との関連箇所にはマークを付して連携を図っている。○道徳の「集団と社会との関わりに関すること」には、各所で取り扱っている。	○巻頭に「日本と世界の歩み」の資料を記載し、現代史を振り返りながら学習できる工夫をしている。 ○脚注部には、「小学校、他分野、他教科との関連」や、「関連する SDGs」を適宜「関連」コーナーで表示し、系統的・横断的な学習をしやすいようにしている。 ○道徳の「集団と社会との関わりに関すること」には、各所で取り扱っている。	○巻頭に「小学校・地理・歴史を振り返る」として、他分野で学習してきた語句を振り返る工夫をしている。 ○巻末に「第二次世界大戦後の歩み」の資料を掲載し、現代史と関連させて振り返る工夫をしている。 ○道徳の「集団と社会との関わりに関すること」には、各所で取り扱っている。	○他分野や小学校社会科での学習が生かすことができるように、脚注に「連携コーナー」を設けている。 ○巻末に「日本の現代史年表」の資料を掲載し、現代史を振り返りながら学習できる工夫をしている。 ○道徳の「集団と社会との関わりに関すること」には、各所で取り扱っている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○立体感や陰影のある表現を省いた「フラットデザイン」を採用し、学習に必要な情報に集中できるようにしている。 ○ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を向上させている。 ○振り仮名には、読み取りやすいゴシック体を使用している。 ○色覚特性への配慮を行っている。(文字の縁取り、破線や点線を減らす等)	○ワイドで見やすいAB判を採用している。 ○判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)やレイアウト、表現方法、文字(ユニバーサルデザインフォント)等を工夫している。 ○「まなびリンク」を設け、さまざまな情報を得ることができるようにしている。(当社ウェブサイトとのリンク)	○文字は、見やすく読み間違いにくいユニバーサルデザインフォント(UD フォン)を使用している。 ○識別しやすい色を使用し、折れ線グラフ等は、線種を変えるなどの工夫をしている。	○ふりがなは全て読みやすいゴシック体にし、ユニバーサルデザインに配慮している。 ○AB判を採用し、左右スペースにグラフや資料等を掲載し、本文内容の補完を充実させている。 ○前回の教科書と比較して約 5%軽い用紙を使用し軽量化を図っている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会・（公民）分野	種類	6 種
--------	-----------	----	-----

(2) 枚中(2) 枚

採択基準	基本観点	自由社(225・自由社)	育鵬社(227・育鵬社)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		905	公民 906	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○「公民を学ぶ目的」を巻頭で提示し、公民的な見方・考え方について示している。 ○単元のまとめとして、学習内容を振り返る際、どの項を見るべきかを明確に示している。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。	○各章の導入に、章全体の学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動の「入り口」を設け、2～5章の末尾には、学習した内容を踏まえ未来の姿を構想できるような「これから」を設け、学びに向かう力や人間性を養えるようにしている。 ○具体的な事例を通して「対立と合意、効率と公正」について学べる教材を随所に配置している。 ○「つかむ、調べる、まとめる」と問題解決学習を重視した教材配列となっている。 ○日本の領土について、地図や写真で明確に記述している。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○一単元ごとにページ左右に用語解説のコーナーを設け、基礎的・基本的な知識の習得を図っている。 ○単元の最後の「ここがポイント」で、この授業でおさえるべき重要な確認事項をまとめていて、ポイントを理解しやすくしている。 ○各章の最後に「学習のまとめと発展」を設け、最重要語句を並べ、理解できたか自己評価できるようにしている。	○「スキルアップ」を7か所設置し、公民の基礎的な技能を習得できるようにしている。 ○見開き1単位時間の紙面で、「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れを明確にした課題解決型の学習としている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	○単元右ページの下に「ここがポイント！」を設け、思考力や判断力を育む工夫が見受けられる。 ○章末の「学習のまとめと発展」において、最重要語句を振り返り押さえた後、「学習の発展」に進んでより進んだ課題に挑戦できるよう工夫している。 ○「アクティブに深めよう」(8 か所)を設け、課題を主体的・対話的に取り組めるよう工夫している。	○詳しい説明や関連する内容を取り上げた「学習を深めよう」を49 か所設置し、知識・思考力・判断力を身につけられるようにしている。 ○各時間の終わりに見開きごとの「学習のまとめ」(鉛筆マーク)を設け、1時間の学習内容を自分でまとめるとともに、言語活動に取り組めるようにしている。		
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○多くの単元ページの中に「やってみよう」を設け、本時の学習のまとめとして課題を提示し、対話的に学習に取り組む工夫が見受けられる。 ○章末の「学習のまとめと発展」において、最重要語句を強化した後、「学習の発展」に進んでより進んだ課題に挑戦できるようにしている。 ○コラム「もっと知りたい」を設け、重要なことがらを深く理解できるようにしている。	○「スキルアップ」を7か所設置し、公民の基礎的な技能を習得できるようにしている。 ○個人やグループで作業や活動を行う「やってみよう」を17 か所設置し、技能や表現力を身につけられるようにしている。 ○「TRY!」を設置し、教科書の学習資料について考えたり、調べたりする課題を示し、主体的な意欲を引き出せるようにしている。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	○巻末に「課題の探求」を設置し、レポート作成やディベートの仕方を具体的に示し、態度や資質を育てているよう工夫している。	○新聞活用教材(NIE)を促すために、新聞記事を多数掲載している。 ○巻末にレポート作成やプレゼンテーションの仕方を具体的に示し、態度や資質を育てているよう工夫している。		
	(5) 他の教科等との関連	○他分野、及び他教科と関連させ、持続可能な社会について考察していくよう工夫している。 ○各章の中で、多くの人物を紹介し、歴史的分野の学習振り返りながら学習できる工夫をしている。 ○巻末に「現代社会の歩み」の資料を掲載し、現代史と関連させて振り返る工夫をしている。	○各「章扉」において小学校社会科で学習した関連内容を取り上げ、他分野で学習した関連内容については、該当する見開きで紹介している。 ○巻末に資料「戦後の日本と世界の主な出来事」を掲載し、現代史と関連させて振り返る工夫をしている。 ○他教科との関連は、「分野関連マーク」を示し、効果的に学習できるよう工夫をしている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○全体で72 単元として構成し、教科書全体で単元に番号を連番でつけ、単元を重ねて学習できるようにしている。 ○重要語句は、ゴシックで表記し、すべて巻末のさくいんに登録している。	○判型を AB とし、図版や写真等の資料を大きく見せている。 ○学習資料を巻末に充実させている。 ○図版資料には、見開きごとに通し番号を付け、生徒が確認しやすいようにしている。 ○カラーバリアフリーとし、ふりがなにはゴシック体を用いている。		

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	社会 ・ 地図	種類	2 種
--------	---------	----	-----

採択基準	基本観点	東京書籍(2 東書)		帝国書院(46 帝国)		(1)枚中(1)枚	
		地図 701		702		発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
						教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	○冒頭で地図帳の活用方法について丁寧に説明がなされ、活用しやすくなっている。 ○3年間、社会科(地歴公)で使うことを想定している。 ○日本の領域に関する排他的経済水域を示し、東西南北端の島の名称と写真及び北方領土・竹島・尖閣諸島の名称と写真を表記している。 ○資料集的な活用効果が期待でき、教科書に載っていない資料を使って理解を深めるような工夫が見られる。		○冒頭で地図帳の活用方法について丁寧に説明がなされ、活用しやすくなっている。 ○幅広い学習に対応できるとともに、地域の特徴が偏らずに理解できるように、多角的に地図・資料が選定されている。地理の時間の地図活用を深めていける。 ○それぞれの地域の特徴を読み取れるよう[一般図]→[資料図]という配列で構成されている。 ○グラフ、表等のデータを読み取ることに力を入れ、深く考えれるよう工夫している。 ○日本の領域に関する排他的経済水域を示し、東西南北端の島の名称と写真及び北方領土・竹島・尖閣諸島の名称と写真を表記している。また、領土の範囲を示す模式図と主な国の排他的経済水域の面積の比較図を取り上げている。			
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	○社会科3分野の連携をサポートし、探求課題を軸にした課題解決的な学習に活用できる資料を選定し掲載している。→ 学習内容の定着を図っている。 ○資料に「歴史・公民マーク」を付し、活用場面を明確化し、教科書での活用度を高めている。 ○「問い」が掲載されており、知識及び技能の習得を図るための工夫がある。		○地図帳の基本的な見方・使い方が巻頭の「地図帳の使い方」ページにわかりやすく解説されており、自主学習の指針となる。 ○作業コーナー「地図活用」(全94か所)を通して、地理の基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る工夫がある。			
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	「スキルアップ」のコーナーを設け、地球規模での現代社会の諸課題の理解を基に、我が国や身近な地域の課題を理解し、解決策に向けて考察することができる。		○同じ縮尺の資料図を並べ、変化や関係性等を追及できるように工夫している。 ○各地方の冒頭に、自然環境、人口、産業、交通の4つの中核となる事象を網羅した5図を設け、地方の産業の特徴を捉えられるようにしている。 ○生徒が主体的に取り組みながら、地理的思考を育める作業コーナー「地図活用」(全94か所)を設置している。 ○地域の状況、産業等、資料が豊富で、地理的な見方・考え方が活用し、考えが深まるようにしている。			
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	○関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連させて見ることで、学習に主体的に取り組むよう工夫している。 ○国連のSDGs(持続可能な開発目標)に代表される、環境・資源・エネルギー問題、人口・貧困問題、紛争・難民問題といった現代社会の諸課題について、資料を豊富に取り上げている。		○作業を通して地形図の見方が身につけられるコーナーを巻頭に設けている。 ○「防災」「環境」「日本との結びつき」のテーマを持たせた特設資料図が掲載されており、直面する課題及び持続可能な社会について考えることができる。 ○学習を支援する二次元コードを各所に設置し、地図帳を補完する資料を閲覧できるようにしている。			
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い						
	(5) 他の教科等との関連	○社会科教科書との連携を密接に図り、教科書での学習内容を補完したり、より深める資料を豊富に取り上げている。 ○資料に「歴史・公民マーク」を付し、活用場面を明確化し、教科書での活用度を高めている。 ○身近な地域(京都や奈良、大阪、神戸)は、詳しい資料として活用できる。		○教科等横断的な活用ができる地図帳として、他教科でも活用できるよう工夫している。(国名や主要都市名などの欧文標記を英語科で活用したり、地震の震源とプレートが確認できる資料を理科で活用) ○見学先の史跡名勝、主な施設、最寄りの駅等がよくわかり、修学旅行等多目的に活用できる。			
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	○ユニバーサルデザインフォントを使用し、文字の視認性を向上させている。 ○振り仮名には読み取りやすいゴシック体を採用し、読み取りやすさを向上させている。 ○色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用する等、情報を読み取りやすくしてある。 ○視覚的効果が高い幅広の判型(AB 版)を用い、見やすく印象的な紙面構成である。教科書と同じ大きさである。 ○「資料さくいん」を設け、必要な資料を簡単に探すことができる。		○大判の判型(A4版)を生かし、地域を学ぶ際に最も適切な図取りとなるよう配慮されている。 ○従前より 15%軽い紙と軽量な製本様式が用いられている。 ○多色刷り(5色)で印刷し、美しく鮮明に表現している。また、カラーバリエーションに配慮している。 ○土地利用表現の色の下に模様(地紋が入っており、色の違いが識別しやすい。陸高の違いを読み取りやすいように、薄緑色で等高線が加えられている。			

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	数学	種類	7種
--------	----	----	----

(2) 枚中 (1) 枚

採択基準	基本観点	東京書籍株式会社(2・東書)	大日本図書株式会社(4・大日本)	学校図書株式会社(11・学図)	教育出版株式会社(17・教出)	株式会社新興出版社啓林館 (61・啓林館)	数研出版株式会社(104・教研)	日本文教出版株式会社(116・日文)
		数学 701 数学 801 数学 901	数学 702 数学 802 数学 902	数学 703 数学 803 数学 903	数学 704 数学 804 数学 904	数学 705 数学 805 数学 905	数学 706 数学 806 数学 906 数学 707 数学 807 数学 907	数学 708 数学 808 数学 908
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「Q」、「例」、「問」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・主体的・対話的で深い学びが実現できるよう「深い学びのページ」を設定し、質の高い数学的活動が行えるよう配慮している。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「活動」、「例」、「Q」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・各章の「利用」の課題で、仲間と協力して対話的に問題解決に取り組むとともに深い学びを実現させる工夫がなされている。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「Q」、「例」、「問」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・数学的活動のページにおいて、話し合いをベースに、主体的・協働的に取り組める課題解決から、新たな問題発見へとつながるように工夫されている。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「Q」、「例」、「たしかめ」、「問」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・各章の導入に「Let's Try」を設け、学習につながる課題を大切にしている。また、「学んだことを活用しよう」等で、考えを説明し、伝え合う学習ができる工夫をしている。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「ひろげよう」、「例」、「問」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」の2部構成になっている。その中の「学びを生かそう」では自分の考えを説明し、伝え合う学習ができるよう工夫している。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「Q」、「例」、「問」や節末、章末、巻末の問題そして別冊ノートなどで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・「探求ノート」を別冊で準備し、問題発見・問題解決の力を高めるために活用しようとしている。	・各領域とも興味関心を高めるための工夫や既習内容を振り返り、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう工夫している。 ・「Q」、「例」、「問」や節末、章末、巻末の問題などで繰り返し学習できるよう工夫している。 ・「とりくんでみよう」等で自分の考えを説明したり、伝え合う学習ができるよう工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・「問」では、「例」と同じ型で、数値のみを変えた問題を設け、「例」と「問」の段差によるつまずきを解消し、章末の「補充問題」で練習機会を設けることで、基礎・基本が身につくように配慮されている。 ・1年0章で、小学校算数から中学校数学へのスムーズな移行ができるように工夫されている。 ・節末、章末の問題だけでなく、巻末に補充の題を取り上げている。 ・学習の区切りで学びの振り返りができるよう工夫されている。	・新しく学んだ事項は、「たしかめ」と「Q」で身につけたうえで、さらに「ブラスワン」の問題等、習熟度や個に応じで利用することができる問題が設けられている。 ・節末、章末の問題だけでなく、巻末に補充問題を取り上げている。 ・学習の区切りで学びの振り返りができるよう工夫されている。	・例題のあとには、基本的な適用問題を「問」として設定、節末に「確かめよう」を設定し、基礎・基本の理解の確認ができるように配慮されている。また、適宜「計算力を高めよう」を設け、基礎基本の定着をねらった問が準備されている。 ・節末、章末の問題だけでなく、巻末に補充の題を取り上げている。 ・「〇章を学んで」で学びの確認ができるよう工夫されている。	・章の最初には既習内容をふり返ったり、生徒に多く見られるつまずきを適宜吹き出しを用いて取り上げたりして、基礎的・基本的な知識・技能が身につくようにしている。 ・多数の問題に取り組むことにより、基礎・基本の確実な習得を図り、さらに個々の課題に応じて取り組めるように巻末の補充問題が示されており、自ら知識・技能の定着を図れるように工夫している。	・新たな内容を学習する際に、系統性を考え、すでに学習した関連する内容を「ふりかえり」として(1年は小学校の教科書の項を用いて)取り上げ、理解を深められるようにしている。 ・項末や章末だけでなく、巻末に補充問題を取り上げている。 ・章末問題を基礎と応用の2部構成にして定着を図れるよう工夫している。	・章の入口では、「ふりかえり」で既習内容を確認し、つまずきへの対応をしている。 ・節末、章末の問題だけでなく、巻末に補充問題を取り上げている。 ・教科書に QR コードが掲載されており、ホームページを通じて、基礎的・基本的な教科書の補充問題に取り組めるように工夫している。	・「次の章を学ぶ前に」、「間違えやすい問題」でつまずきへの対応をしている。 ・間には個々の習熟度に合わせて取り組めるように「チャレンジ問題」が横欄に準備されているだけでなく、さらに巻末に補充問題もあり、多くの問題に取り組めるようになっている。 ・章末の「〇章の問題」など、基本から応用問題まで、程度に応じて繰り返し練習ができるように設定されている。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・「数学の自由研究」、「大切にしたい見方・考え方」、「深い学び」で、調べたり、考えたりできるよう工夫している。 ・章末の「章の問題 B」では、章の内容を応用したり活用したりする問題になっており、また、「活用の問題」は日常生活につなげた内容になっており、思考・判断力を必要とする課題が設定されている。	・「活用・研究」、「レポートを書こう」、「MATHFUL」、「活動」で、調べたり、考えたりできるよう工夫している。 ・章末の「力をのばそう」では、章の内容を応用したり、活用したりする問題になっており、思考・判断力を必要とする課題が設定されている。	・巻頭の「教科書の使い方」で、10通りの見方・考え方について紹介し、思考力・判断力・表現力等の育成を図るために配慮されている。 ・章末の「まとめの問題」では、基本・応用・活用と段階的に分けられていて、また「深めよう」では、学習した内容をもとに、身のまわりで使われている数学について考え、活用できる問題となっている。	・巻頭の「数学的な考え方」では、様々な見方・考え方を紹介し、また、折り込みを開くと、常に「考え方」の一覧が確認できるように工夫されている。 ・「学んだことを活用しよう」では、学習した内容を、身のまわりの問題に発展させ、さらに考えを深めることができる課題が準備されている。	・「説明しよう」、「話しあおう」、「まとめよう」、「学びを身につけよう」などで、調べたり考えたりできるよう工夫している。 ・自分から学ぼう編「力をつけよう」で、レポートの作り方や発表の仕方など、思考力・判断力・表現力等の育成を図るために配慮されている。	・「やってみよう」、「調べよう」、「考えよう」、「TRY」などで、調べたり考えたりできるよう工夫している。 ・別冊で研究ノートが付き、課題学習や対話的な学習で、思考力・判断力・表現力等の育成を図るために配慮されている。	・「考えよう」、「話し合おう」、「深めよう」、「やってみよう」などで、調べたり考えたりできるよう工夫している。 ・章末の「とりくんでみよう」は章の発展問題が示され、また、巻末の「活用の問題」では、活用する力をさらに伸ばすための問題が準備され、思考・判断力を必要とする課題が設定されている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・各章に考える楽しさを実感できる「深い学び」を設定し、「問題をつかむ」「見通しを立てる」など、側注に問題解決のプロセスを示すことで、学習過程を意識できるよう工夫している。 ・「ノートのづくり方」では、前に学んだことを振り返ることができるノートを書けるよう工夫している。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・問題発見・課題解決の流れとして、「問題を見いだそう」「解決のしかたを探ろう」「解決しよう」「深めよう」の4つのステップを示すことで、学習過程を意識できるよう工夫している。 ・「ノートの作り方例」では、前に学んだことを振り返ることができるノートを書けるよう工夫している。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・左側に帯をつけ、「問題を見つけよう」「表に表してみよう」など、今どのような過程で学習をしているのかが明確になるように工夫している。 ・「ノートの使い方」では、前に学んだことを振り返ることができるノートを書けるよう工夫している。 ・巻末がホワイトボードとして使用できるよう工夫している。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・「問題をつかもう」「自分の考えをもとよう」など、側注に問題解決のプロセスを示すことで、学習過程を意識できるよう工夫している。 ・「工夫してノートを書こう」では、前に学んだことを振り返ることができるノートを書けるよう工夫している。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・「利用場面」を提示し、状況を整理し、問題を設定し、見通しを立て、問題を解決し、次に問題を広げたり、深めたりするという4つの場面を設置することで、学習過程を意識できるよう工夫している。 ・2部構成の「自分から学ぼう編」では、「学びのあしあと」に学びの記録を残すことで、学習過程を意識できるよう工夫されている。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・活動を通して解決するための課題「TRY1」と学習の中で大事にしたい問いかけ「Q」を提示することで、学習過程を整理できるよう工夫している。 ・本冊の課題を自然な形で発展させた「別冊探究ノート」により、活動の見通しを立てたり振り返りに用いることができるよう工夫されている。	・各章の導入を統一し、見通しが持てるよう工夫されている。 ・日常や社会の事象、数学の事象から問題を見い出した「学び合おう」では、対話を通して学び合う構成で、「見通しをもとよう」「考えよう」など、学習過程を意識できるよう工夫している。 ・「ノートのくふう」では、前に学んだことを振り返ることができるノートを書けるよう工夫している。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	数学	種類	7種
--------	----	----	----

(2) 枚中(2) 枚

採択基準	基本観点	東京書籍株式会社(2・東書)	大日本図書株式会社(4・大日本)	学校図書株式会社(11・学図)	教育出版株式会社(17・教出)	株式会社新興出版社啓林館 (61・啓林館)	数研出版株式会社(104・教研)	日本文教出版株式会社(116・日文)
		数学 701 数学 801 数学 901	数学 702 数学 802 数学 902	数学 703 数学 803 数学 903	数学 704 数学 804 数学 904	数学 705 数学 805 数学 905	数学 706 数学 806 数学 906 数学 707 数学 807 数学 907	数学 708 数学 808 数学 908
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「発展マーク」や「数学のまど」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・歩いた様子をグラフに表すと？〔1年〕 ・文字が3つに増えたなら〔2年〕 ・桜の開花日予想〔2年〕 ・容積を最大にするには？〔3年〕 ・パスカルの三角形より $(a+b)^3$ 、 $(a+b)^4$ の展開〔3年〕	・「発展マーク」や「活用・探究」「MATHFUL」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・三角形と円(内心、外心)〔1年〕 ・立体の切り口にできる図形〔1年〕 ・シャッフル再生の不思議〔2年〕 ・放物線と直線の交点〔3年〕 ・2乗すると負の数になる数〔3年〕	・「発展マーク」や「TeaBreak」、「深めよう」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・ a^1 や a^0 はあるの？〔1年〕 ・カレンダーの数の秘密〔1年〕 ・GPS と連立方程式の関係〔2年〕 ・CT スキャンと数学〔2年〕 ・高校へのかけ橋〔3年〕	・「発展マーク」や「数学の広場」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・薬師算〔1年〕 ・三角形の外心と内心〔1年〕 ・文字が3つあるときにはどうすればよいのかな〔2年〕 ・立体の切り口〔2年〕 ・放物線と直線の交点〔3年〕	・「学びをいかそう」の「発展マーク」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・不等式〔1年〕 ・点の集合と外心・内心〔2年〕 ・どちらのくじをひこうかな？〔2年〕 ・放物線と直線の交点〔3年〕 ・三角形の重心〔3年〕	・「発展マーク」や「やってみよう」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・薬師算〔1年〕 ・文字が3つの方程式〔2年〕 ・グラフを左右に移動したら〔2年〕 ・放物線と直線の交点の座標〔3年〕 ・円に関するいろいろな性質〔3年〕	・「発展マーク」や「数学研究室」などで当該学年の学習指導要領に示していない内容がわかるように工夫している。 【例】 ・多面体の面、頂点、辺の数の関係〔1年〕 ・3つの文字を含む連立方程式〔2年〕 ・期待値〔2年〕 ・二次方程式の利用〔3年〕 ・指数関数〔3年〕
	(5) 他の教科等との関連	・「他教科の学習と関連」や「学びをひろげよう」、「数学の自由研究」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・AED について知ろう〔保健体育〕 ・自動車の死角を考えよう〔理科・保健体育〕 ・二酸化炭素の削減について知ろう〔技術・家庭科〕 ・アメリカホームステイ〔英語〕 ・黄金比〔美術〕	・「ほかの教科の学習や生活などに関連」や「社会にリンク」、「MATHFUL」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・エンブレムのしくみを解明しよう〔美術〕 ・震源から何 km 離れているかな〔理科・防災〕 ・関数で健康管理〔健康〕 ・パスタメジャーを作ろう〔家庭科〕 ・リレーのバトンパス〔保健体育〕	・「役立つ数学」や「深めよう」、「疑問を考えよう」、「活用」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・リサイクル〔ボランティア団体・医師〕 ・どちらの車がお買い得〔エンジニア〕 ・スピードと停止距離の関係は？〔理科〕 ・デッサンと相似〔美術〕 ・国勢調査の速報〔社会〕	・「数学の広場」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・ランドルト環〔数学と実社会〕 ・自転車のサイズと進む距離〔数学と実社会〕 ・スロープの勾配〔数学と実社会〕 ・陸上トラック〔保健体育〕 ・記号や式を英語で読む〔数学と英語〕	・「学びをいかそう」や「数学ライブラリー」などで他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・緊急地震速報〔防災〕 ・少子高齢化している国〔国際理解〕 ・AED の重要性がわかるグラフ〔保健体育〕 ・プログラミングで模様をつくろう〔技術〕 ・全身が映る鏡〔理科〕	・「調べよう」、「見つけよう」や「数学旅行」、別冊「探究ノート」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・機関車の模型をつくろう〔技術〕 ・地球温暖化問題〔理科〕 ・LED 電球はお得〔理科〕 ・リレーのバトンパス〔保健体育〕 ・白銀長方形と黄金長方形〔美術〕	・「数学を仕事に生かす」や「暮らしと数学」、「数学のたんけん」、「数学研究室」で他の教科等と関連する問題を示している。 【例】 ・地震の P 波と S 波〔防災〕 ・円周率の歴史〔歴史・伝統と文化〕 ・食塩水の濃度〔理科〕 ・ダイヤグラム〔生活〕 ・コンピュータの活用〔情報〕
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「この本の使い方」を記述し、指導者・保護者も含め丁寧な説明がなされている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「この教科書の使い方」を記述し、保護者も含め丁寧な説明がなされている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「この教科書を使った数学の学び方」を記述し、学習の流れが、丁寧に示されている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「教科書の使い方」、「学習するにあたって」を記述し、数学の学びに向けて丁寧な説明がなされている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・“みんなで学ぼう編”と“自分から学ぼう編”の2部構成にしている。 ・教科書の最初に「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう 編」について記述し、数学の面白さに近づこうとしている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「この教科書について」を記述し、非常に丁寧に学習への生かし方が記述されている。	・ユニバーサルデザインの採用、環境に配慮した用紙・インクの使用、キャラクターの登場等、工夫がみられる。 ・学年に応じて巻末に教具を準備している。 ・教科書の最初に「この本の使い方」を記述し、保護者も含め丁寧な説明がなされている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	理科	種類	5種
--------	----	----	----

(2) 枚中 (1) 枚

採択基準	基本観点	2 東書	4 大日本	11 学図	17 教出
		理科 701 理科 801 理科 901	理科 702 理科 802 理科 902	理科 703 理科 803 理科 903	理科 704 理科 804 理科 904
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・A4スリム版、3冊の総ページ数は 833 ページである。各領域の内容をバランスよく配置している。 ・生徒自ら課題を見出し、学習の見通しがもてるよう工夫している。また、インターネットを活用した学習を記載している。 ・事故防止、薬品の管理や廃棄物の処理について、詳しく取り上げている。 ・日常生活や社会とのつながりに関連した事例を多く取り扱っている。また、職業を関連付けた事例を多く取り扱っている。 ・巻末資料に科学館や博物館等の施設を写真付きで、各学年6箇所ずつ紹介している。	・B5版、3冊の総ページ数は 878 ページである。各領域の内容をバランスよく配置している。 ・生徒自ら課題を見出し、学習の見通しがもてるよう工夫している。また、インターネットを活用した学習を多くの箇所に記載している。 ・事故防止、薬品の管理や廃棄物の処理について、詳しく取り上げている。 ・日常生活や社会とのつながりに関連した事例を非常に多く取り扱っている。また、職業を関連付けた事例を多く取り扱っている。 ・巻末資料に科学館や博物館等の施設を写真付きで、1年10箇所、2年26箇所、3年4箇所紹介している。	・AB版、3冊の総ページ数は 755 ページである。各領域の内容をバランスよく配置している。 ・生徒自ら課題を見出し、学習の見通しがもてるよう工夫している。また、インターネットを活用した学習を記載している。 ・事故防止、薬品の管理や廃棄物の処理について、取り上げている。 ・日常生活や社会とのつながりに関連した事例を取り扱っている。また、職業を関連付けた事例を取り扱っている。 ・3年巻末資料に科学館や博物館等の施設を地域ごとに、238 箇所紹介している。	・AB版、3冊の総ページ数は 861 ページである。各領域の内容をバランスよく配置している。 ・生徒自ら課題を見出し、学習の見通しがもてるよう工夫している。また、インターネットを活用した学習を記載している。 ・事故防止、薬品の管理や廃棄物の処理について、詳しく取り上げている。 ・日常生活や社会とのつながりに関連した事例を多く取り扱っている。また、職業を関連付けた事例を取り扱っている。 ・巻末資料に科学館や博物館等の施設を写真付きで、1 年4箇所、2年3箇所、3年4箇所紹介している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・単元の初めや関連するページに「これまでに学んだこと」として、小学校の既習内容を 42 記載している。 ・3 年間の観察・実験における基本操作を 26 掲載している。 ・章末ごと、単元末ごとに練習問題を掲載している。つまりきやすい内容には「例題」がある。 ・単元末に基礎的な用語をまとめ、索引に合計 407 個の用語を掲載している。	・単元の初めに「これまでに学んだこと」、関連するページに「思い出そう」で、小学校の既習内容を 82 記載している。 ・3 年間の観察・実験における基本操作を 16 掲載している。 ・章末ごと、単元末ごとに練習問題を掲載している。計算問題には例題と解説を掲載している。 ・単元末に基礎的な用語をまとめ、索引に合計 480 個の用語を掲載している。	・単元の初めに「ふり返ろう・つなげよう」、関連するページに「ふり返ろう」で、小学校の既習内容を 69 記載している。 ・3 年間の観察・実験における基本操作を 21 掲載している。 ・二次元コード教材として練習問題を設定している。つまりきやすい内容には「例題」がある。 ・索引に合計 631 個の用語を掲載している。	・章の初めに「これまでの学習」、関連するページに「思い出そう」で、小学校の既習内容を 50 記載している。 ・3 年間の観察・実験における基本操作を 23 掲載している。 ・単元内単元末に練習問題、巻末に総合問題を掲載している。計算問題の解き方を解説する「例題」「練習」がある。 ・単元末に基礎的な用語をまとめ、索引に合計 654 個の用語を掲載している。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究的な学習活動を単元に位置付けている。 ・観察、実験の目的を明示し、理科の見方・考え方に関連した図や写真、吹き出し、思考や表現の例を示している。科学的な概念等を使って説明する活動を取り上げている。 ・各単元に活用を設けて身の回りの現象等とつなぐ工夫、章末に振り返りを設け、学習のまとめを行える工夫がある。	・課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究的な学習活動を単元に位置付けている。 ・観察、実験の目的を明示し、理科の見方・考え方に関連した図や写真、吹き出し、思考や表現の例を示している。結果・考察例を記載している。 ・単元の終わりの探究活動で、身の回りの現象等と関連付ける工夫がある。	・課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究的な学習活動を単元に位置付けている。 ・観察、実験の目的を明示し、単元等のはじめに学びのゴールの姿を示し、学習後に自分の変容を確認するよう振り返りを工夫している。 ・理科の見方・考え方に関連した図や写真、吹き出し、思考や表現の例を示している。結果・考察例を記載している。	・課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究的な学習活動を単元に位置付けている。 ・観察、実験の目的を明示し、学習後に自分の変容を確認するよう振り返りを工夫している。 ・理科の見方・考え方に関連した図や写真、吹き出し、思考や表現の例を示している。科学的な概念等を使って説明する活動を取り上げている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・図や写真、吹き出しにより、自然の事物・現象等から疑問を見いだす場面を設定している。 ・キャラクターと吹き出しを用い、対話の具体例を記載している。 ・単元末等に家庭学習等で取り組むことができる問題を取り扱っている。自由研究のテーマを巻末に配置している。 ・デジタルコンテンツの活用のため、二次元コードを1年17箇所、2年24箇所、3年30箇所表示している。また、コンピュータの活用を提示している。	・図や写真、吹き出しにより、自然の事物・現象等から疑問を見いだす場面を設定している。 ・キャラクターと吹き出しを用い、対話の具体例を記載している。 ・単元末等に家庭学習等で取り組むことができる問題を取り扱っている。自由研究のテーマを巻末に配置している。 ・デジタルコンテンツの活用のため、二次元コードを1年29箇所、2年22箇所、3年17箇所表示している。また、コンピュータの活用を提示している。	・図や写真、吹き出しにより、自然の事物・現象等から疑問を見いだす場面を設定している。 ・キャラクターと吹き出しを用い、対話の具体例を記載している。 ・単元末等に家庭学習等で取り組むことができる問題を取り扱っている。自由研究のテーマを巻末に配置している。 ・デジタルコンテンツの活用のため、二次元コードを1年37箇所、2年41箇所、3年46箇所表示している。また、コンピュータの活用を注意点を記載している。	・図や写真、吹き出しにより、自然の事物・現象等から疑問を見いだす場面を設定している。 ・キャラクターと吹き出しを用い、対話の具体例を記載している。 ・単元末等に家庭学習等で取り組むことができる問題を取り扱っている。自由研究のテーマを巻末に配置している。 ・デジタルコンテンツの活用のため、二次元コードを1年23箇所、2年15箇所、3年23箇所表示している。また、コンピュータの活用を提示している。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「発展」と明記し掲載している。「読み物」が中心で、関連した今後の学習内容、語句の説明、科学的なボックス等、多くの項目を扱っている。 ・自然災害、SDGs に関する内容については、3年の最後の単元で集中して扱っている。関連する読み物資料については、1年生から単元で取り上げ掲載している。	・「発展」と明記し掲載している。「読み物」が中心で、関連した今後の学習内容、科学者の業績、くらしの中の科学等、多くの項目を扱っている。 ・自然災害、SDGs に関する内容については、3年の最後の単元で集中して扱っている。関連する読み物資料については、1年生から単元で取り上げ掲載している。	・「発展」と明記し掲載している。「読み物」が中心で、関連した今後の学習内容、科学的なボックスを扱っている。 ・自然災害、SDGs に関する内容については、3年の最後の単元で集中して扱っている。関連する読み物資料については、1年生から単元で取り上げ掲載している。	・「発展」と明記し掲載している。「読み物」が中心で、関連した今後の学習内容、科学者の業績、生活の中の科学を多く扱い、詳しく解説している。 ・自然災害、SDGs に関する内容については、3年の最後の単元で集中して扱っている。関連する読み物資料については、1年生から単元で取り上げ掲載している。
	(5) 他の教科等との関連	・関連する他教科の学習事項を示す印を設けて、本文欄外で記述している。関連する他教科数種類を多く掲載している。 ・自然の事物・現象を調べ考える活動を通して、生命尊重、自然環境や生態系の保護の重要性を取り扱っている。 ・科学者や職業人の偉業や努力を紹介している。	・関連する他教科の学習事項を示す印を設けて、本文欄外で記述している。関連する他教科数種類を掲載している。 ・自然の事物・現象を調べ考える活動を通して、生命尊重、自然環境や生態系の保護の重要性を取り扱っている。 ・科学者や職業人の偉業や努力を紹介している。	・関連する他教科の学習事項を示す印を設けて記述している。関連する他教科数種類を掲載している。 ・自然の事物・現象を調べ考える活動を通して、生命尊重、自然環境や生態系の保護の重要性を取り扱っている。 ・科学者や職業人の偉業や努力を紹介している。	・算数・数学の学習事項を示す印を設けて記述している。 ・自然の事物・現象を調べ考える活動を通して、生命尊重、自然環境や生態系の保護の重要性を取り扱っている。 ・科学者や職業人の偉業や努力を紹介している。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・ユニバーサルデザインに取り組んでいる。 ・24 種類の印を使用し、UD フォントを採用している。1年生用のみ本文の文字フォントが大きい。重要語句はゴシック太字にしている。 ・グラフは線の種類を変えている。 ・209 箇所で脚注を使用している。 ・各学年の巻末にペーパークラフトが付いている。	・ユニバーサルデザインに取り組んでいる。 ・17 種類の印を使用し、UD フォントを採用している。1年生用のみ文の文字フォントが大きい。重要語句はゴシック太字にしている。 ・294 箇所で脚注を使用している。	・ユニバーサルデザインに取り組んでいる。 ・26 種類の印を使用し、UD フォントを採用している。全ての学年用で本文の文字フォントは同じ大きさである。重要語句はゴシック太字にしている。 ・グラフは線の種類を変えている。 ・153 箇所で脚注を使用している。 ・各学年の巻末にアイデアボードが付いている。	・ユニバーサルデザインに取り組んでいる。 ・23 種類の印を使用し、UD フォントを採用している。1年生用のみ本文の文字フォントが大きい。重要語句はゴシック太字にしている。 ・色の違いが分かりにくい箇所に色名を明記している。 ・218 箇所で脚注を使用している。 ・各学年の巻末にペーパークラフトが付いている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	理科	種類	5種
--------	----	----	----

(2) 枚中 (2) 枚

採択基準	基本観点	61 啓林館			
		理科 705 理科 805 理科 905			
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・AB版、3冊の総ページ数は816ページである。各領域の内容をバランスよく配置している。 ・生徒自ら課題を見出し、学習の見通しがもてるよう工夫している。また、インターネットを活用した学習を多くの箇所に記載している。 ・事故防止、薬品の管理や廃棄物の処理について、詳しく取り上げている。 ・日常生活や社会とのつながりに関連した事例を非常に多く取り扱っている。また、職業を関連付けた事例を多く取り扱っている。 ・本文中の写真が掲載された科学館や博物館等の施設を、1年6箇所、2年3箇所、3年5箇所紹介している。			
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・単元の初めや関連するページに「つながる学び」として、小学校の既習内容を62記載している。 ・3年間の観察・実験における基本操作を22掲載している。 ・単元内、単元末に練習問題、巻末に総合問題を掲載している。計算問題に解き方を解説する「例題」「練習」がある。 ・単元末に基礎的な用語をまとめ、索引に合計771個の用語を掲載している。			
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・課題の把握、課題の探究、課題の解決という探究的な学習活動を単元に位置付けている。 ・観察、実験の目的を明示し、学習後に自分の変容を確認するよう振り返りを工夫している。 ・理科の見方・考え方に関連した図や写真、吹き出し、思考や表現の例を示している。科学的な概念等を使って説明する活動を取り上げている。 ・各単元に1つ、探究シートを使って生徒が主体的に探究する観察・実験を取り扱っている。			
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・図や写真、吹き出しにより、自然の事物・現象等から疑問を見いだす場面を設定している。 ・キャラクターと吹き出しを用い、対話の具体例を記載している。 ・単元末等に家庭学習等で取り組むことができる問題を取り扱っている。自由研究テーマ例を巻末に配置している。 ・デジタルコンテンツの活用のため、二次元コードを1年94箇所、2年105箇所、3年111箇所表示している。また、コンピュータの活用を提示している。			
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「発展」と明記し掲載している。「読み物」が中心で、関連した今後の学習内容、語句の説明、科学コラム等、多くの項目を扱っている。 ・自然災害、SDGsに関する内容については、3年の最後の単元で集中して扱っている。関連する読み物資料については、1年生から単元で取り上げ掲載している。			
	(5) 他の教科等との関連	・関連する他教科の学習事項を示す印を設けて、本文欄外で記述している。関連する他教科数種類を掲載している。 ・自然の事物・現象を調べ考える活動を通して、生命尊重、自然環境や生態系の保護の重要性を取り扱っている。 ・科学者や職業人の偉業や努力を紹介している。			
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・ユニバーサルデザインに取り組んでいる。 ・50種類の印を使用し、UDフォントを採用している。1年生用のみ本文の文字フォントが大きい。重要語句はゴシック太字にしている。 ・200箇所で脚注を使用している。 ・各学年の巻末に探Qシートがついている。			

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	音楽(一般・器楽)	種類	2 種
--------	-----------	----	-----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	教育出版 株式会社(17・教出)		株式会社 教育芸術社(27・教芸)		発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		一 般 701・801・802	器 楽 751	一 般 702・803・804	器 楽 75	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	- 各ページ、分野ごとに色分けされており、目次とともに、「学びのユニット」としてマークを活用し、学びを深めるためにポイントが記載されている。 「コンピュータと音楽」や「私たちの暮らしと音楽」といった、生活や社会の中に存在している音楽について取り入れられている。	目次には学習内容相互のねらいや領域のまとまりや複数教材との関連性が、一目見てわかるよう工夫されている。	- 目次には学習内容相互のねらいや領域のまとまり、関連性についてわかりやすく工夫されている。 「生活や社会の中の音楽」は学習指導要領の目標に基づき、生活や社会の中の音や音楽文化と豊かにかかわる資質・能力の育成を重視して掲載されている。	「学びの地図」が設けられ、学習の見通しを持つ工夫がされている。 - 写真や図版を多く用いて、わかりやすく説明している。 「アンサンブルセミナー」を示すことにより、器楽の活動を通した学びに注目できる。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	- 各楽曲のページの端に、使用されている音楽記号や音楽用語が記されている。 「Let's Sing!」に、鑑賞の技能に関した「旋律のまとまり」を掲載し、音楽の構造と関わる旋律のまとまりを学習に対応して取り扱うことができるように工夫されている。 - 楽典の一覧表は、折り込み方式で、広げると3ページが同時に見ることができる。	- リコーダーはS・Aどちらを用いても、併用でも学習が展開できるようにしている。 - 篠笛と尺八では、旋律や奏法を覚えたり伝えたりするための唱歌を表記している。	- 各教材のページの端に新出の音楽記号や題材が記載され、わかりやすく、ねらいが明確になっている。 「リズムゲーム、リズムアンサンブル、リズムチャレンジ」、「My Voice!」において、基礎的な学習内容を体感して確認できるよう工夫されている。 - 楽典の一覧表はコンパクトで明瞭である。 - 音楽史年表は系統的に配列され、時代の流れを視覚的にとらえることができる。	- アルノリコーダーのみならずソプラノの扱いも充実している。 - 和楽器の学習において、唱歌や口三味線を歌う活動を示し、親しみや実感をもって音楽に接する工夫が図られている。 - 単旋律の補助教材を充実させ、様々な楽器での演奏に対応している。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	- 主要教材での学びを基盤に、「比べてみよう」「深めてみよう」と学びが深まるように配慮されている。 「知識」及び「技能」に関する内容を「思考力・判断力・表現力等」の育成と関わらせて習得できるように、「ACTIVE!」「Lets' Try!」やキャラクターによるヒントを示すなど工夫されている。	教科書後半に、合奏や創作教材を中心とした「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」では、習得した知識や技能を活用し、学びを深める工夫がされている。	- 思考した内容を記述する場面の設定や、作品例やワークシートを掲載し、学習活動の手順をつかみながら、知覚と感受とのつながりについて理解することができるワークシートが設けられている。 - 謡や唱歌、鼓の楽譜が丁寧に記載されており、伝統音楽を実際に体験しながら、その良さを味わうことができるよう工夫されている。	- 音楽(一般)との関連・共通曲が多く、領域間を横断的・発展的に捉えた指導がしやすい。 - リコーダーなどの個人楽器を主としたアンサンブルの教材は、楽器の差し替えも容易で、フレキシブルに実態に合わせて指導できるよう構成されている。		
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	- 取り入れられている合唱曲は、「空」にまつわる楽曲が多く、生徒が歌詞に込められた思いに共感しながら、仲間と共に音楽を楽しむことができる曲が掲載されている。 「話し合おう」というスペースを設け、対話的な学習について、配慮されている。	吹く楽器・弾く楽器のそれぞれの区切りに各楽器を比較しながら特徴をまとめる「何が同じで、何がちがう」のコーナーを設けている。	- 豊富な著名作曲家の作品が数多く収録され、合唱曲の質が高く発達段階に応じた難易度の設定にも配慮がなされている。系統性や横断的学習の観点でも特化している。 「深めよう！音楽」では、曲に対する自分の考えを持ち、仲間との対話を通して学習を深める工夫がされている。	- キャラクターやコラムを用い、考える視点を例示しながら、主体的・対話的な学びを引き出す工夫がされている。 - 比較的新しい教材を取り入れ、日常生活と関連させながら主体的な活動ができる教材が多い。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	「音」ってなあに？のコーナーにおいて、音の物理的な性質についてその原理を解説している。	「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」で、管楽器及び世界の諸民族の楽器の背景にある文化や伝統、構造について調べる学習のコーナーを設けている。	- 創作活動を通してプログラミング的思考を育成できるよう配慮されている。 - 全学年において指揮法の基礎について触れており、音楽に関する主体的活動ができるよう工夫されている。	「音楽ってなんだろう?」「バンドの世界をのぞいてみよう」など、興味関心意欲を高め、学習を深める配慮がされている。		
	(5) 他の教科等との関連	- 音楽に関する知的財産権を具体的な事例を示し、理解が深まる工夫がされている。 - 音楽療法についての教材が取り入れられており、医療と音楽のつながりを学ぶことで、音楽のもつ力について、思いや考えを深めることができるよう工夫されている。 - コンピュータと音楽との関わりについての教材が取り入れられている。	様々な国の楽器や楽曲を取り上げ、諸外国の音楽文化の理解を深めるよう工夫している。	- 音楽に関する知的財産権を具体的な事例を示し、理解が深まる工夫がされている。 - 歌詞の内容や作曲家の生きざまなどから、道徳科や人権教育に横断的に発展させられるようなコラムが掲載されている。 - SDGsに触れ、日本人が音楽教育を通して開発途上国の教育環境改善に取り組む姿などを紹介している。	和楽器の学習に併せて、姿勢や礼儀など、国際理解に関するコラムを記載している。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	- 全体的にしっかりした紙質で、色も明るい。装丁も良い。 - ユニバーサルデザインに配慮した表記・レイアウトを工夫している。	- カラーユニバーサルデザイン、レイアウト、UDフォントなどの工夫がされている。 - 教材に関連した写真を掲載し、作品のイメージを持ちやすい。 - 全体的にしっかりした紙質で、色も明るい。装丁も良い。	- 大判の写真を多く掲載し、音楽の持つ魅力や力を包括的に伝えながら各学習教材につなげられるよう工夫されている。 - 表紙絵に著名なデザイナーを起用し中学生に親しみを感じさせるデザインになっている。 - ユニバーサルデザインに配慮した表記・レイアウトを工夫している。	- インクルーシブ教育の実現を目指し、白を基調とした紙面とし、情報の配置にも配慮している。 - ユニバーサルデザインに配慮した表記・レイアウトを工夫している。		

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	美術	種類	3種
--------	----	----	----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		9 開隆堂	38 光村	116 日文	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	◇1年を1冊、2・3年を1冊の合計2冊で構成している。 (総題材数＝62、総ページ数＝190) ◇題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」に分けていて、「学びの資料」として19項目掲載されている。オリエンテーションに関わる題材が各巻の巻頭と巻末についている。 ◇各題材について、1題材2ページ見開きを基本として取り上げているが、題材によっては4ページ構成にしている。(折り込みページは除く) ◇造形的な見方と深い鑑賞ができるように構成が工夫されている。各領域の初めに扉のページとして、学習の意味が伝わるように工夫されている。 ◇QRコードから動画や作品の解説、作品例などが示されている。(68箇所)	◇1年を1冊、2・3年を1冊の合計2冊で構成している。 (総題材数＝52、総ページ数＝186) ◇題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」に分けていて、「学習を支える資料」として26項目掲載されている。オリエンテーションに関わる題材が巻頭と巻末についている。 ◇各題材について、1題材2ページ見開きを基本とし、1ページ、4ページの題材もある。(折り込みページは除く) ◇授業の流れが見える化され、鑑賞では深まりの意識や他教科とのつながりを大切に構成されている。 ◇QRコードを採用し、動画と音声ガイドで理解しやすいよう工夫されている。(38箇所)	◇1年を1冊、2・3年を上巻・下巻に分冊して2冊の合計3冊で構成している。 (総題材数＝67、総ページ数＝201) ◇題材を「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」に分けていて、「学びの資料」として31項目掲載されている。オリエンテーションに関わる題材が巻頭と題材分野の頭、巻末についている。 ◇各題材について、1題材2ページ見開きを基本として取り上げている。(折り込みページは除く) ◇造形的な見方と深い鑑賞ができるよう工夫されている。 ◇QRコードからガイダンス動画や作品の解説などが示されている。(14箇所)	
内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	◇1年の巻頭で「学びの地図」で学習内容の概略を、巻末に「学びの資料」として基礎的な知識や技法の説明を取り上げている。 ◇題材ごとに「学習の目標」として、「知識や技能に関する目標」が提示されている。 ◇題材の鑑賞が初めに示されていて、学習の流れを大切にした構成である。 ◇描き方やモダンテクニックなどの基礎的な技法に関しては、QRコードが付いていて、アクセスすると動画での解説がある。 ◇レタリングは書き方の手順が掲載されていて基礎的な技能の習得の仕方を取り上げている。 ◇2・3年生では、美術史を学べるよう年表を取り上げていて、時代背景や名画の知識を学べるよう配慮している。 ◇知識、技能の習得を助ける資料ページである。 ◇理解しやすいようにルビが多く打ってあり、読み書きなどの支援が必要な生徒へ配慮されている。	◇1年の巻頭で「美術って何だろう」「美術でまなぶこと」で学習内容の概略を、巻末に「学習を支える資料」として基礎的な知識や技法の説明を取り上げている。 ◇題材ごとに「目標」があり、表現と鑑賞のそれぞれの視点での目標が提示されている。 ◇描き方やモダンテクニックなどの基礎的な技法に関しては、QRコードが付いていて、アクセスすると動画での解説がある。 ◇レタリングの書き方手順の掲載や色相環に色名が記載されていて基礎的な知識を取り上げている。 ◇2・3年生では、美術史を学べるよう年表を取り上げていて、時代背景や名画の知識を学べるよう配慮している。 ◇材料や用具、技法、形と色彩などさまざまな資料が巻末にまとめてある。	◇1年の巻頭で「中学美術の世界へようこそ」で学習内容の概略を、巻末に「学習を支える資料」として基礎的な知識や技法の説明を取り上げている。 ◇題材ごとに「学びの目標」として、「造形的な見方を豊かにする視点や技能に関する目標」が提示されていて、題材の分類や学びの目標、造形的な視点が明確である。 ◇モダンテクニックの技法に関しては、QRコードが付いていて、アクセスすると動画での解説がある。 ◇色相環に色名が記載されていて基礎的な知識を取り上げている。 ◇2・3年生では、2・3上に美術史を学べるよう年表を取り上げていて、時代背景や名画の知識を学べるよう配慮している。 ◇巻末資料で表現活動のサポートがある。 ◇2・3上、下では実寸大の作品を多く取り上げていて（7点）作品をより身近に感じることができ、作品への理解を深められるよう工夫されている。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	◇3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。 ◇題材ごとに「学習の目標」として、「思考力・判断力・表現力に関する目標」が掲載されている。又、表現中心の題材の中に「発想・構想の方法や学習の進め方などを示す」マークなど、学習のポイントが分かりやすいよう工夫している。	◇3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。 ◇「表現中心の題材」では、発想・構想の目標が掲載されている。又、表現中心の題材では、「表現」の中の「発想・構想」や、「みんなの工夫」として、サブタイトルがついていて、発想・構想の仕方が示されている。	◇3年間で多様な表現方法の経験ができるよう題材を配列している。また、表現意図に応じて表現方法を選択できるよう、多様な表現方法や作品例を取り上げている。 ◇題材ごとに「学びの目標」として、「発想や構想、鑑賞に関する目標」が掲載されている。	

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	美術	種類	3種
--------	----	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		9 開隆堂	38 光村	116 日文	教科書の記号・番号
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	◇鑑賞の題材の中で、芸術家の考え方を学習できるよう工夫している。 ◇「作者のことば」が多数掲載されていて、考えるヒントとなるように配慮されている。	◇2・3年の「学習を支える資料」として「発想を広げる」が掲載されていて、発想方法が5種類紹介される等工夫している。 ◇作品を比べて鑑賞し、作品の理解を深める工夫や「作者のことば」が多数掲載されていて、考えるヒントとなるように配慮されている。	◇1年の「学びを考える資料 鑑賞」として「発想・構想の手立て」が掲載されていて、その題材の中でアーティストの発想の仕方も紹介する等工夫している。 ◇実物大の作品を多く取り上げていて、作品のイメージを考えやすいような配慮や「作者のことば」が多数掲載されていて、考えるヒントとなるように配慮されている。 ◇図版資料的な題材があり、アイデアを具体化するための資料にも活用できるよう工夫している。	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	◇1年生の巻頭ページで「学びの地図」として美術とは何かについて取り上げている。2・3年生の巻頭では「くらしに生きる美術」として様々な職業の方のことばが紹介されている。 ◇題材ごとに「学習の目標」として、「学びに向かう力に関する目標」が掲載されている。 ◇共同制作や友達と関わりながら進める活動を多く取り上げている。	◇1年生の巻頭ページで「美術って何だろう」と、美術とは何かについて取り上げている。 ◇題材ごとに「目標」が掲載されている。 ◇題材の初めの「鑑賞」の問いは、生徒の対話が生まれるような言葉を工夫している。	◇1年生の巻頭ページで「中学校の美術の世界へようこそ」として、美術とは何かについて取り上げている。2・3上巻では身の回りの美術について取り上げていて、2・3下巻では探求と美術についてのことばがある。巻頭や巻末に様々な職業の方のことばが紹介されている。 ◇題材ごとに「学びの目標」として、「主体的に学習に取り組むための目標」が掲載されている。 ◇「造形的な視点」というタイトルで主体的・対話的で深い学びのための手立てを紙面に取り上げている。 ◇問題発見、解決能力の育成に配慮されている。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	◇現代的な諸課題(環境や地域文化・伝統文化など)に対応する題材を多く掲載することで、生徒の持続可能な社会への関心や主体的な取組を促すよう配慮されている。 ◇日本語指導が必要な生徒へ各題材の学習目標を7カ国語で対応できるように配慮している。 ◇デジタル教科書を取り上げている。	◇現代的な諸課題(環境や地域文化・伝統文化など)に対応する題材を多く掲載することで、生徒の持続可能な社会への関心や主体的な取組を促すよう配慮されている。 ◇デジタル教科書を取り上げている。	◇現代的な諸課題(環境や地域文化・伝統文化など)に対応する題材を多く掲載することで、生徒の持続可能な社会への関心や主体的な取組を促すよう配慮されている。 ◇デジタル教科書を取り上げている。	
	(5) 他の教科等との関連	◇他教科や道徳と関連しているページにはマークが示されている。	◇国語科、社会科、数学科、理科、家庭科など他教科と関連しているページでは、解説があり道徳と関連しているページには、マークとともに内容項目が示されている。	◇道徳と関連しているページには、マークとともに目標が記されていて、特別活動、総合的な学習の時間、進路指導や他教科を横断して活用しやすい事例を取り上げている。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	◇落語家、保育士、パティシエなど身近な職業の方の美術とのつながりを紹介しており、生活の中での美術を感じられるように工夫されている。 ◇学びの資料として著作権や映像メディアの使い方が紹介されている。 ◇QRコードから動画や作品の解説、作品例などが示されている。(68箇所) ◇色相環の中心の色を赤ではなく、黄を中心として掲載するなど、少数派色覚の生徒に分かりやすい図で配慮している。	◇学習を支える資料として、著作権や映像メディアの使い方が紹介されている。「タブレット端末を利用する鑑賞方法の紹介」等、手軽に美術鑑賞をできる内容の掲載がある。 ◇QRコードを採用し、動画と音声ガイドで理解しやすい工夫されている。(38箇所)	◇現在活躍されているミュージシャンや俳優など身近な芸術家の言葉、ノーベル賞を受賞された大村さんや様々な職業の方の言葉を掲載していて、美術を身近に感じられるように工夫されている。 ◇学習を支える資料の中の「動画をつくる」として、著作権や映像メディアの使い方が紹介されている。 ◇QRコードからガイダンス動画や作品の解説などが示されている。(14箇所)	

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）	教科・種目名	保健体育	種類	4種
---------------------	--------	------	----	----

(1)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称) 東京書籍(保体 701)	発行者名(番号・略称) 大日本図書(保体 702)	発行者名(番号・略称) 大修館書店(保体 703)	発行者名(番号・略称) 学研(保体 704)
		教科書の記号・番号 保体 701	教科書の記号・番号 保体 702	教科書の記号・番号 保体 703	教科書の記号・番号 保体 704
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	I 1 章①が保健編からの指導内容となっている。 II 表題はUD（ユニバーサルデザイン）書体である。 III 資料の量、大きさ、配色等を工夫している。 IV 端末資料、発問、さらには、用語解説、キーワードが充実し、整理されている。	I 1 章①が体育編からの指導内容となっている。 II 表題はゴシック書体である。 III 「章で学習すること」の記載が端的である。 IV キーワードとなる語句の表示が強調されている。 V 教科書の幅が狭くしてある。	I 1 章①が体育編からの指導内容となっている。 II 表題は明朝書体である。また、キーワードとなる語句についてはUD（ユニバーサルデザイン）書体を使用している。 III 章のまとめ問題の量が豊富である。 IV 用語及びキーワードの解説が整理されている。	I 1 章①が体育編からの指導内容となっている。 II 表題はゴシック書体である。 III 索引の文字が大きくしてある。 IV 端末資料や章のまとめ問題が豊富である。また、発問も豊富である。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	I 各章末に「学習のまとめ」としての「確認の問題」が設定されており、学習内容の知識の習得状況を確認める配慮がされている。 II 「技能」「実習資料」がイラストや写真を用いて手順を具体的に示されている。また、教科書の内容にリンクした、技能を映像・動画で確認できるデジタルコンテンツが設定されている。	I 各章末に「学習のまとめ」として「重要な言葉」という項目で重要語句が具体的にまとめられている。また、発行者のWe bサイトを通じて「まとめ問題」が設定されており学習内容を確認できるよう配慮されている。 II 技能や実習について、イラストや写真で手順が示されている。発行者のWe bサイトへアクセスすることで動画や資料を閲覧できる。 III AR技術を用いたデジタルコンテンツが利用できる。	I 各章末に「章のまとめ」として「知識・技能の確認問題」が設定されており、学習内容を確認できるよう配慮されている。 II 実習の方法がイラストを中心に示されている。一部写真の資料もある。 III 発行者のWe bサイトへアクセスして、動画や資料を閲覧できる。	I 各章末に「章のまとめ」として「振り返ろう」という項目で学習に対する自己評価ができる。また、「確かめよう」「生かそう」の項目では学習内容の問題が設定されている。 II 技能や実習についてイラストや写真で手順が示されている。 III 発行者のWe bサイトへアクセスし、教科書と連動した動画や関連リンクを参照できる。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	I 各小単元の内容に「見つける」「発問」「活用する」「広げる」と主体的・対話的に学習が進められるように工夫している。 II 共生の視点を重視した口絵になっているので知識の活用や生活への適用等に配慮している。 III 「広げる」の課題設定が、生涯を通じて、安全や健康の保持増進、回復を目指す実践力の基礎を育てるように工夫している。	I 各小単元の、課題を発見する活動「つかもう」、課題を解決する活動「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」、学習したことを生かす活動「活用して深めよう」などの活動ができる工夫がされている。 II 各章末の「学びをいかそう」では、その章で学習したことをより深く理解し、生活に生かすための課題設定がされている。	I 教科書の表紙に3年間で学習する内容が絵で表現しており、将来の自分を見つめられるよう工夫している。 II 各小単元に「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の流れで構成されている。学習したことを生かし、課題発見、解決、発表・提案と生活に生かす学習が進めやすいよう工夫している。 III 各章末には、思考・判断・表現の問題が設定されている。	I 各小単元に「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」の順で学習が深められるように工夫している。 II 「まとめる・深める」では、身につけた知識をもとに、自他の課題を見つけ、解決するように工夫している。 III 各章末には「探究しようよ」のページがあり、活用するための資料やヒントを取り上げている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	I 自社We bサイトが50ヶ所ある。また、教科書1ページにはWe bコンテンツの目次がある。 II 各小単元の内容に「見つける」「発問」「活用する」「広げる」と主体的・対話的に学習が進められるように工夫している。 III まとめの問題集がついており、自主学習に取り組む工夫がされている。 IV 章末資料が豊富である。	I 自社We bサイトは教科書に23ヶ所ある。 II 本文のページと資料のページが分かれている。全小単元で資料が1ページあり、豊富である。 III 小単元において「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」という項目で対話的な活動が設定されている。 IV 多くのページの下部に「ミニ知識」という項目があり、学習内容に関連した雑学等が記されている。	I 自社We bサイトは24ヶ所ある。 II 小単元のはじめには「課題をつかむ」「今日の学習」「学習のまとめ」という項目で主体的・対話的に内容を深める項目がある。 III 多くのページの下部に「掘り下げる」という項目があり、学習内容に関連した雑学等が記されている。 IV まとめの問題集がついており、自主学習に取り組む工夫がされている。	I 自社We bサイトは23ヶ所で関連のある他社サイトも23ヶ所ある。 II 「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という項目で話し合い活動が設定されている。また、「協働」マークを示し、対話的かつ協働的に活動する学習活動が設定されている。 III はほぼ全てのページの下部に、「情報サブリ」という項目があり、学習内容に関連した雑学等が記されている。 IV まとめの問題集がついており、自主学習に取り組む工夫がされている。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	I 「読み物」「章末資料」で発展的な内容の資料や学習課題について取り扱っている。	I 「トピックス」「章末資料」で発展的な内容の資料や学習課題について取り扱っている。	I 「資料」「保健の窓」「特集資料」「コラム」で発展的な内容の資料や学習課題について取り扱っている。	I 「探究しよう」「発展」マークで発展的な内容の資料や学習課題について取り扱っている。
	(5) 他の教科等との関連	I 各章の最初のページに、「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」「高校で学習すること」が示されている。また、道徳との関連が示されている。 II 各単元ページに、各教科・内容との関連が示されている。 III デジタルコンテンツの一覧から、他教科の関連ページを確認することができる。	I 各章の最初のページに小中高の関連する学習内容が示されている。 II 各単元ページに、各教科・内容との関連が示されている。	II 各章の最初のページに小中高の関連する学習内容が示されている。 III 各単元ページに、各教科・内容との関連が示されている。	I 各章の最初のページに小学校で学習した内容、高校で学習する内容が示されている。 II 各単元ページに、各教科・内容との関連が示されている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	I 見出しと本文にはUD（ユニバーサルデザイン）書体が使用されている。 II 重要語句は太字となっている。 III 配色についてもカラーユニバーサルデザインに基づいた配色となっている。 IV 各学年の学習内容は保健編が先で、体育編が後となっている。	I 見出しと本文にはUD（ユニバーサルデザイン）書体が使用されている。 II 重要語句は太字となっている。 III 配色についてもカラーユニバーサルデザインに基づいた配色となっている。 IV 各学年の学習内容は体育編が先で保健編が後となっている。	I 見出しと本文にはUD（ユニバーサルデザイン）書体が使用されている。 II 重要語句は太字となっている。 III 配色についてはカラーユニバーサルデザインに基づいた配色となっている。 IV 各学年の学習内容は体育編が先で保健編が後となっている。	I 見出しと本文にはUD（ユニバーサルデザイン）書体が使用されている。 II 重要語句は太字となっている。 III 配色についてはカラーユニバーサルデザインに基づいた配色となっている。 IV 各学年の学習内容は体育編が先で保健編が後となっている。

・教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	技術	種類	3 種
--------	----	----	-----

(1) 枚中(1) 枚

採択基準	基本観点	発行者名(2 ・ 東書)	発行者名(6 ・ 教図)	発行者名(9 ・ 開隆堂)	発行者名(番号・略称)
		技術 701	技術 702	技術 704	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・ガイドランスは、技術における課題解決に必要な考え方について整理されている。 ・重要用語を太字とし、わかりやすさを工夫している。 ・18種類のマークを使用し、学習の仕方を補助する工夫をしている。 ・各編の最終頁に「学習のまとめ(例:86頁から87頁)」を設け、確認と自己評価ができる工夫をしている。	・ガイドランスは、技術が私たちの生活を支え、持続可能な社会の実現に向けて役立っていることが示されている。 ・大きな文字、重要用語を青色標記するなど、見やすさを工夫している。 ・12種類のマークを使用し、学習の仕方を補助する工夫をしている。 ・基礎技術を別冊としてまとめる工夫をしている。 ・重要用語を青色太字とし、わかりやすさを工夫している。 ・各章末に「〇編のまとめ(例:76頁から77頁)」を設け、学習内容の確認や発展をねらう工夫をしている。	・ガイドランスは、技術の学習プロセスと企業でのものづくりの流れについて連続性が示されている。 ・各ページ右上に道具や機器の写真を入れる工夫をしている。 ・18種類のマークを使用し、学習の仕方を補助する工夫をしている。 ・重要用語を太字とし、わかりやすさを工夫している。 ・各内容の最終頁に「学習のまとめ(例:92頁から93頁)」を設け、学習内容の確認にと自己評価ができる工夫をしている。	
		(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・学習内容ごとに「目標(例:20 頁)」と「まとめよう(例:21 頁)」を設けることにより、具体的に学習内容の確認ができる工夫をしている。 ・技能習得に欠かせない実習について、巻頭に2ページと安全マーク(21カ所)でケガ防止の工夫をしている。 ・技能実習について写真やイラストにより、表記する工夫をしている。	・学習内容ごとに「めあて」「キーワード」(例:12頁)と「ふり返る(例:13頁)」を設けることにより、具体的に学習内容の確認ができる工夫をしている。 ・技能習得に欠かせない実習について、巻頭に2ページと安全マーク(24カ所)でケガ防止の工夫をしている。 ・別冊(「技術ハンドブック」)を設け、実習に関する基礎技能をまとめる工夫をしている。	・学習内容ごとに「学習の目標(例:22頁)」と「ふり返り(例:25 頁)」を設けることにより、具体的に学習内容の確認ができる工夫をしている。 ・技能習得に欠かせない実習について、巻頭に2ページと安全マーク(19カ所)でケガ防止の工夫をしている。 ・技能実習について写真や図により、多く表記する工夫をしている。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮		・各編に「実習例」を示し(例:68 頁から75 頁)、技術を評価する能力を育てるように配慮している。 ・巻頭に学習方法の例示を具体的に掲載(2頁から3頁)する工夫をしている。 ・「活動(例:21頁)と記述し、生徒が主体的に対話できる工夫をしている。 ・学習のまとめ(例:86 頁から87 頁)として、問題形式で深めさせる工夫をしている。	・各章に「実習例」を示し(例:26頁)、技術を評価する能力を育てるように配慮している。 ・各編末に「〇編のまとめ」と表示したページを設け(例:76 から77 頁)、問題形式で深めさせる工夫をしている。	・各内容に「実習例」を示し(例:56頁から67 頁)、技術を評価する能力を育てるように配慮している。 ・「考えてみよう(例:46頁)」「調べてみよう(例:86頁)」「話し合ってみよう(例:88 頁)と記述し、主体的に対話できる工夫をしている。
		(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	・「資料」と記述し(例:26・27 頁)、取り扱っている。 ・各ページ下段に、「技術の工夫」として参考事項を記載する工夫をしている。	・「発展↑」と記述し(例:127 頁)、取り扱っている。 ・生徒の興味・関心に応えられるように「もっと知ろう」印(例:17 頁)を設け、学習を深められるようにしている。	・「発展」と記述し(例:187 頁)、取り扱っている。 ・生徒の興味・関心に応えられるようにページ下に「豆知識」をほぼすべてのページ下に設け、学習を深められるようにしている。
	(5) 他の教科等との関連		・各編の最初に「他教科とのつながり」としてまとめて記述(例:18ページ)した上で、その都度「他教科(例:26 頁)」「小学校(例:30 頁)」マークで示している。	・各章の最初に「リンク(例:12 頁)」と示している。	・各内容の最初に「小学校との関連」「中学校他教科との関連」としてまとめて記述(例:95 頁)した上で、その都度「他教科(例:110 頁)」「小学校(例:103 頁)」マークで示している。
	3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・UDフォントを使用している。 ・ガイドランスは順序立てた丁寧な記述をしている。 アニメを用いる工夫した記述である。 ・QRコードを記載し、インターネット活用による学習が可能なよう工夫している。 ・アニメを用いて興味を引き付ける工夫をしている。	・UDフォントを使用している。 ・ガイドランスについて簡潔な説明で記述をしている。 ・QRコードを記載し、インターネット活用による学習が可能なよう工夫している。 ・アニメを用いて興味を引き付ける工夫をしている。 ・別冊「技術ハンドブック」を用いて補う工夫をしている。	・UDフォントを使用している。 ・ガイドランスは順序立てた丁寧な記述をしている。 日本の伝統的な技法を取り上げている。 ・QRコードを記載し、インターネット活用による学習が可能なよう工夫している。 ・アニメを用いて興味を引き付ける工夫をしている。

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）				（ １ ）枚中（ １ ）枚	
教科・種目名		技術・家庭科 技術・家庭(家庭分野)	種類	3 種	
採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称) 2東書 教科書の記号・番号 家庭701	発行者名(番号・略称) 6教図 教科書の記号・番号 家庭702	発行者名(番号・略称) 9開隆堂 教科書の記号・番号 家庭703	
		ガイダンスが 14 ページあり小学校の内容と照らし合わせて示されており、中学校 3 年間の学習内容の見通しを持たせている。 生活に関わる見方・考え方を働かせることに関する資料は 1 つの内容で重視している視点はああるが、相互に関わり合って掲載されている。 二次元コードが活用できることを示す「D」や「Dリンク」マークの表示がある。	ガイダンスが 4 ページあり、小学校の生活のふり返りから中学校での学習内容を示している。 生活に関わる見方・考え方を働かせることに関する資料を、本文中やそれに関わる図から考えられるように工夫されている。それぞれの章末に「学びを生かそう」として掲載し、深い学びとなるよう工夫されている。 二次元コードの表示がある。	ガイダンスが 12 ページあり、「自立と共生」「生活の見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」の観点から、家庭科の学習内容を示している。 生活に関わる見方・考え方を働かせることに関する資料の中で「持続可能な社会の構築」に関する項目が A、B、C のすべてにあり、関連付けている。 二次元コードが活用できることを示す表示がある。	
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	多様な実習例を数多く取り上げ、学校の実態や生徒のレベル、生活背景に応じられるよう示しており、習熟度や進度差にも対応し、実践的体験的な学習活動が行えるよう工夫している。 「いつも確かめよう」で基礎的・基本的な技能が示しており、自分で確かめながら学習を進めることができる。 実習例のほか「私のオリジナル」や応用例が示されている。	実践的・体験的な活動例を取り上げている。「組み合わせてつくろう」では、手順を考えることや栄養を考えることなど、実践的な学習が行えるよう工夫している。 基礎的・基本的な技能が実習の冒頭に示しており、確認しながら学習を進めることができる。 実習例のほか「私のアレンジ」や「どうしてこうなったのかな？」など具体例が示されている。	他の内容と関連させた実習例を取り上げている。「組み合わせ例」や「あと一品つくってみよう」では、組み合わせを考えて学習を進めることができる。 基礎的・基本的な技能が実習の冒頭に示しており、確認しながら学習を進めることができる。 調理方法 Q&A ではつまずきやすいポイントや調理上の疑問に答えが示されている。	
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	生活の中の課題発見の学習活動は、その多くは、各節の始めに掲載されている。「やってみよう」などの見出しで示されている。 課題解決的な教材を、3 つの内容の学習の最後に配置している。まとめと発表の仕方について多様な方法を示している。 言語活動の内容は「話し合ってみよう」「活動」という見出しで示されており、レポートとしてまとめる内容も示されている。	生活の中の課題発見の学習活動は、各節に複数が掲載されている。「考えてみよう」などの見出しで示されている。各章の「自立度チェック」では、自分の課題を見いだすことができる。 課題解決的な教材を、各内容や題材の最後に配置している。進め方の例を示している。 言語活動の内容は、グループでまとめたりする内容が「話し合ってみよう」として示されている。	生活の中の課題発見の学習活動は、各節の始めに記載されている。「わたしの興味・関心」という見出しで示されている。 課題解決的な教材を 3 つの内容の学習の最後に配置している。まとめ方の例を示している。 言語活動の内容は「話し合ってみよう」、「やってみよう」という見出しで示されている。	
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	「主体的・対話的で深い学び」につながる場面として、「活動」を多く取り上げ、学校での学びが家庭での実践につながるよう工夫している。 各節末には自己評価の欄を設置し、学習の振り返りができるよう工夫している。 「プロに聞く!」など、中学生たちが自分の将来を見据えて学習ができるように、キャリア教育の充実にも配慮している。	「話し合ってみよう」「やってみよう」などを示し、主体的・対話的に学習に自ら取り組めるよう工夫している。 各章末には学習を生かして課題に取り組めるよう、具体例や課題設定のヒントを示している。 「メッセージ」「センパイに聞こう」など、中学生たちが自分の将来を見据えて学習ができるように、キャリア教育の充実にも配慮している。	「生活にいかそう」や「やってみよう」「話し合ってみよう」などを示し、主体的・対話的に学習に自ら取り組めるよう工夫している。 栄養に関する学習では、実験を示し、興味を持って科学的な理解が図れるよう工夫している。 「先輩からのエール」など、中学生たちが自分の将来を見据えて学習ができるように、キャリア教育の充実にも配慮している。	
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い	該当箇所に発展マークをつけ、近年の日本の現状や、海外での様子が伺える内容など、生徒の興味関心に応じて深められる内容を取り上げている。 「世界の衣食住」や「乳児」、「子どもの権利を守るための条約や法律」「フェアトレード」の他に、「ファミリーサポートセンター」(幼児)・「ユニバーサルデザイン」(共生)などを取り上げている。	該当箇所に発展マークをつけ、身近な問題を取り上げ、基礎の学習をもとに、理解度や興味関心に応じて学習が進められるようにしている。 「世界の衣食住」や「乳児」、「子どもの権利を守るための条約や法律」「フェアトレード」の他に、「地域の伝統的な器」(食)・「マンガやアニメの主人公の住まい」(住)などを取り上げている。	該当箇所に発展マークをつけ、基礎の学習の発展資料として、興味関心が持てるよう、写真を用いて示している。 「世界の衣食住」や「乳児」、「子どもの権利を守るための条約や法律」「フェアトレード」の他に、「進化する素材」(衣)・日本版「ネウボラ」(幼児)などを取り上げている。	
	(5) 他の教科等との関連	各編の導入には、「小学校家庭科での学習」をチェック形式で示し、中学校の学習にいかせるように工夫している。 該当箇所にそれぞれリンクや他教科マークをつけ、具体的事項を示し、学習内容の関連が図られるよう工夫している。 特別の教科 道徳との関連内容は、他教科マークで示し、具体的事項を示している。	各章の導入には小学校の学習との関連がわかるよう「リンク」マークが掲載され、中学校の学習にいかせるように工夫している。 該当箇所にそれぞれリンクをつけ、具体的事項を示し、学習内容の関連が図れるよう工夫している。 特別の教科 道徳との関連内容は、リンクで示し、具体的事項を示している。	小学校の学習と関連する項目の冒頭に「小学校での学び」を設け、小学校で学んだ学習をふり返り、中学校の学習にいかせるように工夫している。 該当箇所にそれぞれ他教科、他分野のマークをつけ、具体的事項を示し、学習内容の関連が図れるよう工夫している。 特別の教科 道徳との関連内容は、他教科のマークで示し、具体的事項を示している。	
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	UDフォントを採用しており、色使いにも全ての生徒に対する配慮が見られる。爪見出しには色と高さの工夫がされている。 安全や衛生マークの記載があり、調理の各献立では食材を衛生的に扱えるか、チェック項目を設けている。 巻末に防災・減災手帳が 6 ページ分と、子どもの視界体験眼鏡がある。 脚注は 23 個ある。「生活メモ」を 202 個記載している。	ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されており、重要語句を青字で示し、爪見出しには色や高さの工夫がされている。 安全や衛生マークの記載があり、調理の各献立では食中毒の予防を特に喚起している。 巻末に献立の学習シールがあり、実践的学習に用いることができる。 脚注は 22 個ある。	カラーユニバーサル視点からデザイン上の配慮がされており、文章や紙面の配置などに工夫されている。爪見出しは色分けされ、関連する写真が示されている。 安全や衛生マークの記載があり、調理の各献立では安全と衛生について注意喚起をしている。 巻末に災害対策が 8 ページ分、記載されている。 脚注は 40 個ある。「豆知識」を 287 個記載している。	

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6 種
--------	---------	----	-----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)2・東書	発行者名(番号・略称)9・開隆堂	発行者名(番号・略称)15・三省堂	発行者名(番号・略称)17・教出
		教科書の記号・番号 英語 701,801,901	教科書の記号・番号 英語 702,802,902	教科書の記号・番号 英語 703,803,903	教科書の記号・番号 英語 704,804,904
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・小中高接続を意識したCan－Doリストをもとに構成。巻末にリストが見開きで用意され何ができるようになるか・なったかを整理しやすい。 ・評価について、Unit 途中の Mini Activity で「知識・技能」を、Unit 末の Unit Activity で「思考・判断・表現」を、Stage 末の Stage Activity で3観点を総合的にパフォーマンス評価できるようになっている。 ・変化する高校入試に対応し、段階的な読む力の育成のため、多様な文章形式を取り上げている。	・各 Program の始めに1 ページを使って学びの見通しを立てて学びの見える化。 ・「扉」に Listening がありより興味関心を引き、各 Program へとスムーズに入っていくための工夫がある。 ・巻末には CAN-DO リストを示し3 年間を通して4技能5領域について年4回チェックができるようになっており、到達目標が明確になっている。 ・全学年の指導の流れが統一されているのは良いが、授業展開や活動など指導者の工夫が必要である。	・とびら(学びの見通し)→GET(知識・技能の習得)→USE(思考力・判断力・表現力)→文法のまとめ(振り返り)で構成。5領域を統合的に使用する力を伸ばす配慮がある。 ・1年では小学校の学習を振り返りながら、円滑に中学校への学びにつながる構成となっている。また中学校で学んだことが高校での学習に活きるよう、文法語彙の仕組みが身につくような工夫や、高校入試や高校英語で扱われる長文読解や学習習慣が身につくよう配慮している。 ・各単元の流れが統一され、指導者に使いやすい。	・実際のコミュニケーション場面で役に立つ表現や、あいづちの打ち方などの自然な要素が盛り込まれている。ある程度まとまった英文を聞いて、分かったことを個人でまとめ、考えを共有する場面が設けられている。 ・導入(聞く)→本文(読む、話す)→文法事項のまとめ ・レッスンは5パートで構成されており、Part1,2 は対話文、Part3は叙述文で読むことに重点を置き、Review や Task、Grammar の3つのコーナーで理解を深める。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・概要・大意をつかみ詳細をおさえ、表現につなげるという授業展開ができるように Round1 →2 →3 という構成がされている。 ・英文を聞いたり読んだりして概要をつかむよう促し、英語を英語のまま理解させようとする意図がある。 ・巻末の資料編や Word Room には、活用できる語句が豊富に掲載されている。	・小中接続を意識し、1年生導入期は小学校英語と同じ学習方法ができるよう工夫されている。 ・対話の本文を通して自然に新出事項の導入や小学校時の既習表現について触れられている。 ・Scene ではマンガ形式の短い対話で、新出表現がどんな場面、状況、目的で使われるのか・視覚と音声で理解し、マッピング、言い換えを行い知識・技能の習得を図る。	・1年生Lesson3までは小学校との接続を意識し、聞く・話す活動をメインに、文字指導や文法指導で基礎的な知識の定着を図っている。 ・GETのパートで英文を聞いたり読んだりしながら文法項目を整理している。また、GET Plusでは設定された場面でどのように表現すればよいかを考えさせる。 ・Word Bank で語彙の充実を図っている。	・小中接続を意識し、小学校英語の復習ができるようになっている。 ・Activity Plus には日常的に使用できる Q&A が示されている。 ・Key Sentence は本文での表現と同じになっていることで無理なく本文にもつながる。
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・Unit、Let’s シリーズ、Stage Activity の主要単位では、リアルで実生活に即した内容を取り上げ、4技能の活動を繰り返しながら、知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を身につけることができる工夫がなされている。 ・「3段階読み」で概要から詳細の順に捉え、文章の読み方を身に付けるとともに、習得した知識・技能を使って自己表現につなげるような構成を取っている。 ・Activityで4技能を個別・統合して活用するよう工夫されている。	・Programごとに Think というページがあり、比較的まとまった英文を読み、大意を理解し、そして自分の言葉で説明したり、考えを深めたりするコーナーが設定されている。 ・Think では文章を3ラウンド制の読解を通して新出表現を確認や、題材について深く考えることができる構成となっている。 ・Retell では読み取った内容について写真や絵や語句をもとに再話することによって理解や表現力を高める内容となっている。	・USEのパートで「読む・書く・話す・発表する」の流れで習得した知識・技能の活用を促すよう構成されている。 ・習得から活用という学びのプロセスの中で、揭示された多様な題材と言語活動をととして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、思考・判断・表現する力を養えるよう配慮している。 ・扱っている題材や資料がオーセンティックなものが多く、資料活用をの力を伸ばすのに有効である。	・小学校の復習が盛り込まれている。Activity を通して自己表現する力、相手の発表を聞いて分かったことを書くなど、相互評価できるように工夫してある。 ・プロジェクト的にUnitの終わりに5領域を総合的に活用するような課題解決型のページ設定がある。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・各単元の最終ページに生徒が用法を混同しがちな文法について丁寧に説明し生徒が繰り返し自学自習ができる工夫を行っている。 ・Unit の学習を積み上げた先に Stage Activity が用意され領域統合的なパフォーマンス活動を行えるような工夫、構成がなされている。 ・「学び方コーナー」など英語学習のポイントやコツを系統的に紹介している。 ・小学校から中3まで、題材のテーマに関連性がある。	・スピーチの原稿作成において図示やマッピングをするスペースを設ける等、構想を練る段階から互いに共同作業で行ったり、ペアでの対話や retelling 活動で即興でやりとりする工夫がある。 ・Interact では新出表現を使う自然な場面設定の中で、即興のやり取りやその要点を「書くこと」でまとめる活動が行える構成となっている。	・What Can I Do?でCan－Doリスト的に習得すべき項目や内容を網羅し、その都度立ち返りながら自分の力を確かめられる。 ・USE・Take Action! Talk・Projectで会話文を参考に、ロールプレイの形で対話や発表の機会を充実。 ・多様な題材や言語活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現できるように配慮している。 ・For Self-study では学び方を学べる工夫がなされている。 ・巻末の基本本文のまとめ等に自律的に学べる工夫がある。	・Activities Plusで身近で使える表現を紹介し、即興でやり取りするよう促している。 ・Activity が多く盛り込まれているので、Lesson ごとにテーマについて、自分で考え、相手に伝えることができる設定となっている。 ・How To Study では効果的な学習の例がのるなど自発的な学習の手立てもある。 ・巻末に Can-Do リストが明示されていて学習者が見通しをもって学習を進め自己評価できるような工夫がある。
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い				
	(5) 他の教科等との関連	・今の世代の人も将来の世代の人も幸せに暮らしていける「持続可能な世界」の視点に関する題材を用意様々な教科と関連を持たせている。 ・道徳、国語、社会、理科・技術・家庭など現代的な諸課題を扱い、他教科での学習を英語に生かすことができる工夫が行われている。 ・教科書内容の学習を通じて、日本を含め様々な国の文化を学べる。 ・国際理解教育の視点(国際支援)の単元がある。	・持続可能な開発目標に準ずる題材を用意することで多数の教科との関連性を持っている。 ・教科書内容の学習を通じて、日本を含め様々な国の文化を学べる。	・家庭科 保体 音楽 社会 道徳 技術等 ・持続可能でよりよい世界を目指す国際目標の視点 ・学び、ことば、伝統文化、異文化、自然、社会、人間理解など、他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を意識した題材が取り上げられている。 ・教科書内容の学習を通じて、日本を含め様々な国の文化を学べる。 ・環境教育、人権教育の視点(車いすバスケットボール)の単元がある。	・家庭科 保体 音楽 社会 道徳 技術等もそうだが持続可能な世界へ向けてということで様々な視点からの題材が含まれている。 ・異文化、我が国の文化理解、地理・歴史、生命・環境、情報、福祉、健康、平和などの話題が豊富に取り上げられており、総合的な学習につながる内容となっている。 ・道徳で重視される自分の考えを書いたり討論したりするなどして表現する機会や総合的な学習の時間で重視される他者と協同して問題を解決しようとする学習活動も設けられている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・1年生時にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・教師用指導書では、小学校との関連箇所が朱書きとなっていたり、DVD-ROM には学習を支えるピクチャーカードやワークシートのみならず、評価に活用できるシステムも収録されている。また指導者用デジタルブックには PC やタブレット等で活用できるコンテンツが豊富である。	・1年生時にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・カラーユニバーサルデザイン使用	・1年生時にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・カラーユニバーサルデザイン使用	・1年生時の(Lesson7まで)にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・カラーユニバーサルデザイン使用

教科用図書調査研究報告書（道徳を除く）

教科・種目名	外国語(英語)	種類	6 種
--------	---------	----	-----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(番号・略称)38・光村	発行者名(番号・略称)61・啓林館	発行者名(番号・略称)	発行者名(番号・略称)
		教科書の記号・番号 英語 705,805,905	教科書の記号・番号 英語 706,806,906	教科書の記号・番号	教科書の記号・番号
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・Can-do リストをベースにした構成で、できるようになることを常に意識させている。 ・学年の各 Unit の導入では単元ごとの目標を確認し、絵や写真から題材への興味づけを図り、ストーリーを推測しながら大まかな内容をとらえる工夫があり、文法事項をインプットし、聞く→話す→書く の順に活動が設定されている。 ・扱っている題材や資料がとてもリアルで扱いやすく、生徒にとってどのような場面でその表現を使うのかイメージしやすい。	・扉→Part→Read&Think→(2・3年)Express Yourself→(2・3年)More Informatuon→Projectの構成。 ・各ユニットの導入が Read から始まっているので、副教材や他の資料等を活用して、音声ややりとりから導入していく工夫が必要である。 ・現行の New Horizon の教科書とよく似ている。各ページの語数は6社中最も少ない印象である。		
	(2) 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	・1 年 Unit3 までの本文の内容量が比較的短く中学校での学習の準備期間として設定されている。 ・Story Telling などの帯活動や Active Grammar, Grammar Hant, Play Back the Story などの繰り返し既習事項に触れられる工夫がある。	・Partで基礎的な語彙・文法を、4技能を使って習得させる。 ・Target の横にポイントが日本語も含め端的にまとめられており、基本となる文法事項を繰り返し活用することで重要な文法事項が定着できるようになっている。 ・本文以外にも出てくる単語を別に整理しまとめている。		
	(3) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・Listen Speak Write の順で 音と文字を一致させ、QA 形式で内容をおさえる構成 ・教材の構成が、聞くことと読むことから始まり、Thinking を経て話すことや書くことの表現活動に展開しており、思考力・判断力・表現力を養うように工夫されている。	・Read&Think のページで習得した文法がすべて本文の中に含まれており、既習事項を振り返りながら読んだり書いたりする。概要把握、細部把握、発信活動を行う構成となっている。 ・本文の英文量が比較的少ないため、様々な授業展開が考えられる。		
	(4) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・3年間でひと続きのストーリー展開で本文が構成。3年間でオリジナルのストーリー作成につながるアイデアを出し合えるような授業構成が可能。 ・Story Retelling, Let's Talk の帯活動で即興力を育成。 ・各学年の Your Coach のコーナーでは英語の学習の仕方を掲載し、自律的学習者を育てる工夫がある。 ・Unit の Goal と You Can Do It!にはふり返りのコーナーがあり、自己評価から次の活動への意識づけができる。 ・QRコードにより、本文のスライドアニメや実写映像も閲覧することができる。	・Express Yourselfで既習事項を使って自己表現する。 ・学校やスポーツ、食文化の違いなど現在の出来事を題材として扱っている。またマンガ文化についての題材など、興味を持ちやすい。 ・Use, Express, Yourself, Project などでは、ペアやグループでの活動を設定し、意見や考えを伝え合い、理解し合うことで、より深い学習が行えるようになっている。 ・ミニスピーチを聞く、その情報を参考に自分のスピーチの原稿を作り、完成したミニスピーチを発表し合うというような授業構成ができるように構成されている。		
	(5) 学習指導要領に示していない内容の取扱い				
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための配慮	・1 年 Unit3 までの本文の内容量が比較的短く中学校での学習の準備期間として設定されている。 ・Story Telling などの帯活動や Active Grammar, Grammar Hant, Play Back the Story などの繰り返し既習事項に触れられる工夫がある。	・Partで基礎的な語彙・文法を、4技能を使って習得させる。 ・Target の横にポイントが日本語も含め端的にまとめられており、基本となる文法事項を繰り返し活用することで重要な文法事項が定着できるようになっている。 ・本文以外にも出てくる単語を別に整理しまとめている。		
	(2) 思考力・判断力・表現力等の育成を図るための配慮	・Listen Speak Write の順で 音と文字を一致させ、QA 形式で内容をおさえる構成 ・教材の構成が、聞くことと読むことから始まり、Thinking を経て話すことや書くことの表現活動に展開しており、思考力・判断力・表現力を養うように工夫されている。	・Read&Think のページで習得した文法がすべて本文の中に含まれており、既習事項を振り返りながら読んだり書いたりする。概要把握、細部把握、発信活動を行う構成となっている。 ・本文の英文量が比較的少ないため、様々な授業展開が考えられる。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・3年間でひと続きのストーリー展開で本文が構成。3年間でオリジナルのストーリー作成につながるアイデアを出し合えるような授業構成が可能。 ・Story Retelling, Let's Talk の帯活動で即興力を育成。 ・各学年の Your Coach のコーナーでは英語の学習の仕方を掲載し、自律的学習者を育てる工夫がある。 ・Unit の Goal と You Can Do It!にはふり返りのコーナーがあり、自己評価から次の活動への意識づけができる。 ・QRコードにより、本文のスライドアニメや実写映像も閲覧することができる。	・Express Yourselfで既習事項を使って自己表現する。 ・学校やスポーツ、食文化の違いなど現在の出来事を題材として扱っている。またマンガ文化についての題材など、興味を持ちやすい。 ・Use, Express, Yourself, Project などでは、ペアやグループでの活動を設定し、意見や考えを伝え合い、理解し合うことで、より深い学習が行えるようになっている。 ・ミニスピーチを聞く、その情報を参考に自分のスピーチの原稿を作り、完成したミニスピーチを発表し合うというような授業構成ができるように構成されている。		
	(4) 学習指導要領に示していない内容の取扱い				
4 使用上の便宜が工夫されていること。	(5) 他の教科等との関連	・社会科、美術、音楽など教科横断的な題材や、職場体験、環境問題、安全・防災、我が国の郷土や伝統文化、修学旅行などの学校の教育活動や目標との連携が図れるようになっている。	・理科、数学、社会、道徳などに関連する題材を多数使用している。巻末付録の英語の歌は音楽と連携させている。 ・題材には、火災訓練、部活動、修学旅行など学校行事と関連するものや、日本や世界で今起きている出来事等を取り上げている。		
	(1) 表記・表現の工夫	・1年生時にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・カラーユニバーサルデザインへの配慮がある。 ・中学校の配当漢字には全てふりがなを付けている。	・1年生時にUDフォントを使い、筆記文字との整合性を持たせている。 ・個人の特性にかかわらず内容が伝わりやすい配色・デザインとなっている。		

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	道徳	種類	6 種
--------	----	----	-----

(2)枚中(1)枚

採択基準	基本観点	発行者名(2・東京書籍)	発行者名(17・教出)	発行者名(38・光村)	発行者名(116・日文)
		教科書の記号・番号 道徳701・801・901	教科書の記号・番号 道徳702・802・902	教科書の記号・番号 道徳703・803・903	教科書の記号・番号 道徳 704・705・804・805・904・905
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・本冊は、本編のみによって構成されている。 ・本編に、読み物と補足資料を組み合わせ、学習を深めさせる工夫がある。 ・本冊の巻末に、付録として学びの振り返りがあり、学期ごと及び1年間の振り返りと次年度への目標設定ができるよう工夫している。 ・切り取り式の心情円やホワイトボードがあり、話し合い活動が円滑に進められる設定がある。 ・第1学年の付録教材に学び直し教材として、小学校の定番教材を掲載している。	・本冊は、本編のみによって構成されている。 ・本編に、読み物とコラム等の補助資料を組み合わせ、学習を深めさせる工夫がある。 ・本冊の巻末に、教材ごとの学びの記録と、付録として学びの振り返りがあり、各学期と1年間の振り返りができるよう工夫している。 ・1年間の振り返りでは、次年度へとつなぐように目標を記入する欄が設けられている。	・本冊は、本編のみによって構成されている。 ・本編に、読み物と補足資料を組み合わせ、学習を深めさせる工夫がある。 ・学期ごとに「シーズン」として学習のまとめをつくり、視点を明確にして学習できるよう工夫している。 ・本冊の巻末に、付録として学びの記録があり、3シーズンごとに振り返りができるよう工夫している。 ・各学年の付録教材に学び直し教材として、小学校の定番教材を掲載している。	・本冊と別冊「道徳ノート」によって構成されている。 ・本編に、読み物とコラム等の補助資料を組み合わせ、学習を深めさせる工夫がある。 ・別冊の巻末に、学期ごとの振り返り欄があり、保護者記入欄もある。 ・別冊には、教材ごとに自己評価欄があり、学習の振り返りができるよう工夫している。
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	・教材の冒頭に、教材のタイトルと別に学習のめあて(テーマ)を明記してあり、見通しをもって学習に向かえる工夫がある。 ・各教材末に「考えよう」「自分を見つめよう」といった、教材内容について考えさせる発問と、それをもとに自己を振り返らせる発問を明確に分けて示している。	・教材の冒頭に、考える観点を明記している。 ・各教材末に「学びの道しるべ」といった、教材内容について考えさせる発問と、それをもとに自己を振り返らせる発問を併記して示している。	・教材の冒頭に、テーマと内容項目を明記している。 ・各教材末に「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」といった、教材内容について考えさせる発問と視点を変えた考え方、それをもとに自己を振り返らせる発問を明確に分けて示している。 ・「深めたいむ」で考えた内容項目についてさらに深める工夫がある。	・教材の冒頭に、テーマと内容項目を明記している。 ・各教材末に「考えてみよう」、道徳ノートに「自分に＋1」といった、教材内容について考えさせる発問とそれをもとに自己を振り返らせる発問を設定している。 ・3ステップで1時間の学習の流れが可視化されており、見通しをもって学習できる。また、友達や先生と一緒に話し合いながら、学べるように工夫されている。
	(2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めるための工夫	・教材ごとに「考えよう」のコーナーを設定して、考える視点を示し、深めさせる工夫を取り入れている。 ・多様な教材を用いて、意見交換や問題解決的な活動ができるよう工夫されている。 ・巻末にはホワイトボードマーカーで書き込めるシートが綴じ込まれており、多様な意見の交流ができるような工夫がある。	・教材ごとに「学びの道しるべ」のコーナーを設定して、考える視点を示し、考えを深めさせる工夫を取り入れている。 ・複数教材をユニット化し、意見交換や問題解決的な活動ができるよう工夫されている。 □巻頭にオリエンテーション「道徳科で学びを深めるために」があり、学び方の例が示されている。	・教材ごとに「考えよう」のコーナーで考える視点を示している。 ・多様な教材を用いて、意見交換や問題解決的な活動ができるよう工夫されている。 ・目当てには示されているが、発問が限定されていないので、授業者が自由な発問をしやすい。 ・各学年巻末には、付録として小学校時の教材があり、過去の自己の考えとの対話を通して、考えを深めることができるようになっている。	・教材ごとに「考えてみよう」のコーナーを設定して考える視点を示し、考えを深めさせる工夫を取り入れている。 ・多様な教材を用いて、意見交換や問題解決的な活動ができるよう工夫されている。 ・別冊に、自分を見つめ考えたことや友達の意見を書き込めるよう工夫している。
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・「考えよう」で考える視点を示し「自分を見つめよう」で自分とのつながりを考えさせている。 ・「いじめ」等に関する資料では、複数教材を用いて考えたりグループで話し合ったりする問題解決的な学習を取り扱っている。 ・思ったことを即座に書き込める「つぶやき」欄や、直接書き込みながら考えを深められる教材がある。 ・巻頭に「話し合いの手引き」や「司会カード」をつけ、話し合いを進めやすくする工夫がある。また、役割演技や対話など様々な体験的学習を設定している。 ・心情円や、ホワイトボードを付録として付けるなど自己表現の工夫がある。 ・学期ごとに切り取る「自分の学びをふり返ろう」が入っている。	・「学びの道しるべ」で考え方の方向性を示し、自分とのつながりの中で考えさせている。 ・「いじめ」「命」に関する教材は、複数の教材をまとめてユニット化し、体験的活動や問題解決的な学習など様々な学び方、考え方ができるよう工夫している。 ・巻末に、教材ごとの記録(感想)を書く「学びを記録しよう」と、各学期及び1年分の振り返りを書く「道徳の学びを振り返ろう」が綴じこまれている。 ・話し合う時間が確保しやすいように、短めの教材が準備されている。	・「考えよう」で考え方の方向性を示し、「つなげよう」で自身や他の教材とのつながりに目を向けさせている。 ・「深めたいむ」を通して、実感を伴って取り組むことができるように工夫がされている。 ・「情報モラル」や「いじめ」などに関する資料では、問題解決的な学習を取り扱っている。 ・3学期をシーズンとしてまとめをつくり、教材のユニット化と合わせて構成している。また、他教科との関連を巻末に示したり、関連する本の紹介をしたりする工夫がある。 ・巻末には、切り取れるシーズンごとの振り返りシートが綴じこまれている。	・「考えてみよう」で考える視点を示し、「自分に＋1」で自分に引き寄せ考えさせている。 ・「いじめ」等に関する資料では、複数の資料をユニット化し、考えたりグループで話し合ったりする問題解決的な学習を取り扱っている。 ・話し合いや、役割演技などの体験的活動を設定している。 ・別冊で毎時間の振り返りと、巻末に印象に残った学習の振り返りを設定している。 ・教材の最後に、自分事として考えられるような発問が設定されている。
	(4) 情報モラルと現代的な課題の取扱い	・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性、発展性を踏まえて取り扱っている。 ・現代的な課題は、いじめ問題をはじめ国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。また、家庭や地域社会との連携に関する工夫も多く取り扱っている	・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性を踏まえて取り扱っている。 ・「この教科書で学んでいくテーマ」のページで、情報モラルとして扱う教材を明示している。 ・現代的な課題は、いじめ問題をはじめキャリア教育、国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。	・情報モラル教材には「深めたいむ」を設置し、自分自身の問題であることを認識できるような配置となっている。 ・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性を踏まえて取り扱っている。 ・現代的な課題は、いじめ問題を多く取り扱い、キャリア教育、国際理解、環境教育等も幅広く取り扱っている。	・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性を踏まえて取り扱っている。 ・「プラットフォーム」と題されたコラム欄で補足教材を掲載している。 ・現代的な課題は、いじめ問題をはじめ、国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。
	(5) 他の教科等との関連	・教材の冒頭、考える観点の下(ページ番号横)に関連する教科等を表示している。 ・巻末「テーマで振り返ろう」のページで、教材が6つのテーマに分類されている。	・他教科との関連については、別冊「教材一覧」に表示されている。 ・各学年の「この教科書で学んでいくテーマ」のページで、7つのテーマごとに教材が分類されている。	・巻末の一覧表に、教材ごとに他教科等との関連を示している。 ・「教材別テーマ一覧」のページで、7つのテーマごとに教材が分類されている。	・巻末の項で、教材ごとに他教科等との関連を一覧表として明示している。 ・「この教科書で学ぶテーマ」のページで、10のテーマごとに教材が分類されている。
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・教材名の前に考える観点(テーマ)を大きく示している。また、内容を把握しやすいようマンガ等を用いるなどの工夫がある。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。 ・ワイドサイズの冊子となっている。(AB版)	・見開きの写真や経年比較ができるような写真、またボスターなど、内容把握や学習に効果的な資料を用いた教材が複数ある。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	・挿絵や写真、マンガ等を用いて生徒がイメージしやすい工夫がある。 ・教材の内容を補足するための写真や図等の配置を工夫している。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。	・各教材のテーマと題名とともに、登場人物や作者を掲載し、教材に入りやすい工夫をしている。 ・「プラットフォーム」としてコラムなどの補助教材で、考えや視野を広げる効果的なページを設定している。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。

教科用図書調査研究報告書(道徳)

教科・種目名	道徳	種類	6種
--------	----	----	----

(2)枚中(2)枚

採択基準	基本観点	発行者名(224・学研)	発行者名(232・廣あかつき)		
		教科書の記号・番号 道徳706・806・906	教科書の記号・番号 道徳707・708・807・808・907・908		
1 学習指導要領に示す目標の達成のために工夫されていること。	(1) 全体としての特徴や創意工夫	・本冊は、本編のみによって構成されている。 ・多くの教材で読み物と補助教材を組み合わせ、学習を深めさせる工夫がある。 ・巻頭にプロフィールを記入し、巻末には「心の四季」のページがあるなど、心の成長を振り返られるよう工夫している。 ・3年生は「未来への扉」のページで、未来の自分へメッセージを書くことができるようにしている。また、「学びの記録」があり、学期ごとの振り返りができるようにしている。 ・日本各地の題材を使用し、近隣の地域に関心をもつとともに、他の地域にも目を向けられるようにしている。	・本冊と別冊「中学生の道徳ノート」によって構成されている。 ・読み物を補足する資料は、各学年3編と巻末に特集ページを補助資料として掲載している。 ・別冊は、内容項目の説明資料となっており、前半はコラムや詩等の補助資料で、後半は学習の記録で構成している。学習の記録は、記載すべき内容の指定などは特になく、自由である。 ・別冊の巻末には、「心のしおり」というシートがあり、自己評価ができるようにしてある。		
2 内容や構成が学習指導を進める上で適切であること。	(1) 道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫	・教材の冒頭に、教材名と導入のためのキープフレーズを示している。 ・各教材末に「考えよう」で教材内容について考えさせる発問を2つずつ設定している。さらに文章の欄外に考えるきっかけを示している。 ・重点テーマを「命の教育」と設定し、「いのちの大切さ」を考える教材を複数扱っている。	・教材の冒頭は、タイトルのみだが、下に道徳ノートとのリンクを示している。 ・各教材末に「考える・話し合う」があり、「学習の手がかり」と「考えを広げる・深める」ための発問を設定し、道徳ノートには、自分の考えが自由に書き込めるようになっており、自己理解が深められるようになっている。		
	(2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めるための工夫	・教材ごとに「考えよう」として、教材ごとに発問を2つ設定している。 ・「深めよう」「クローズアップ」などの補助教材を設定して、考えを深めさせる工夫を取り入れている。 ・いくつかのテーマをユニット化して、複数の教材で多面的に考えられるようにしている。	・教材ごとに「考える・話し合う」のコーナーがあり、「学習の手がかり」と「考えを広げる・深める」ための発問を設定している。 ・重点的なテーマは複数教材で考えられるようにしている。 ・本冊と別冊で内容項目ごとに、それぞれの教材の関連がわかるように示してしている。 ・巻末の特集ページに現代的な課題についての資料を掲載している。		
	(3) 生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができる配慮	・教材のあとに、考える視点を示している。また、巻頭にプロフィールを書く欄を設定している。 ・「いじめ」や人間関係に関する資料では、問題解決的な学習を取り扱っている。 ・話し合いや、役割演技などの体験的活動の中で、対話をしながら考えを深められる設定がある。 ・巻末に、心の成長を記録するページと、授業を振り返る記録用紙が綴じこまれている。 ・有名アスリートの成功までの軌跡を示すことで、自分に置き換えて考えたり、共感しながら考えたりするなど、自由な発想がしやすいように工夫している。	・「学習の手がかり」で考える方向性を示し、別冊の巻頭にプロフィールを書く欄を設定している。 ・「情報モラル」や「いじめ」などに関する資料では、問題解決的な学習ができるような配慮がある。 ・話し合いや、調べる学習・役割演技などの体験的活動が行えるような配慮がある。 ・別冊には、内容項目についての考え方を示しているのと同時に学習の記録が残せるようになっている。 ・巻末には1年間の振り返りができる「心のしおり」を掲載している。		
	(4) 情報モラルと現代的な課題の扱い	・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性、発展性を踏まえて取り扱っている。 ・目次に情報モラルの表記がある。また、「クローズアップ」と題されたコラム欄で補助教材を掲載している。 ・現代的な課題は、いじめ問題をはじめ、国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。	・情報モラルや現代的な課題は、複数の内容項目や学年間の関連性を踏まえて取り扱っている。 ・各学年の巻末に情報モラルに係る特集ページを設けている。 ・現代的な課題は、いじめ問題をはじめ、国際理解、環境教育等を幅広く取り扱っている。		
	(5) 他の教科等との関連	・巻末に、教材ごとに内容項目との関連を一覧表として示している。 ・巻頭に「よりよく生きるための22の鍵」として4つの分類と、「様々なテーマで学ぼう」として6つのテーマに教材が分類されている。	・巻末の一覧に示されている。 ・巻末及び別冊に教材の分類がまとめられている。		
3 使用上の便宜が工夫されていること。	(1) 表記・表現の工夫	・多くの挿絵や大小の写真を使い、視覚的に教材内容をとらえられるように工夫している。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。 ・ワイドサイズの冊子となっている。(AB版)	・教科書の使い方等、教材以外の部分を最小限にしている。また、教材文と挿絵等のバランスを図り、シンプルな構成になっている。 ・別冊に、全内容項目を補足する資料を掲載している。 ・生徒の読みを助けるために、必要に応じて漢字に振り仮名(字体や大きさに配慮)を振っている。 ・カラーユニバーサルデザインについて配慮している。 ・ワイドサイズの冊子となっている。(AB版)		